

## 平成27年第10回教育委員会会議録

日時：平成27年7月31日（金）

午前9時開会

場所：津リージョンプラザ内

第3会議室

出席委員	委員長	坪井 守
	職務代理者	庄山 昭子
	委員	松本 昭彦
	委員	滝澤 多佳子
	教育長	石川 博之

出席者	教育次長	倉田 幸則
	教育研究支援課長（兼）教育研究所長	土性 孝充

坪井委員長 平成27年第10回教育委員会を開催します。本日の議案の概要説明をお願いします。

教育次長 それでは、本日の議案の概要でございますが、第30号 平成28年度使用中学校用教科用図書採択について1件の議案について、御審議をお願いします。

詳しい内容につきましては、担当課長から説明させますので、よろしく願いします。

坪井委員長 本日の議案は、お手元の事項書のとおり、議案第30号の議案1件です。議案第30号につきましては、津市教育委員会会議規則第16条第4号の規定に該当するため非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは、議案第30号につきましては、非公開と決定します。

議案第30号 平成28年度使用中学校用教科用図書採択について

議案第30号 非公開で開催

議案第30号 次回継続審議

坪井委員長 会議の冒頭で決定しましたとおりここからは、非公開とします。それでは議事に入ります。議案第30号 平成28年度使用中学校用教科用図書採択について、事務局から説明をお願いします。

教育研究支援課長 教育委員の皆様には、「平成28年度使用中学校用教科書選定に関する参考資料」と「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」、「平成27年度教科書展示会開催状況」を、事前に送付させていただきました。また、本日は、対象となる中学校の教科用図書見本本を用意してございますので、必要に応じてご覧いただきたいと思っております。

それでは、まず、津市教科用図書調査研究委員会の経緯についてご説明いたします。5月19日に第1回調査研究委員会を開催し、教科書の種目別（調査員代表）会を設置し、調査研究を行うことを決定いたしました。各調査員会は、調査員会を開き、調査結果を「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告

書」にまとめました。なお、本調査にあたり、三重県教育委員会において作成された「平成28年度使用中学校用教科書選定に関する参考資料」も参考にしました。7月24日に第2回、7月27日に第3回調査研究委員会を開催し、各調査員からの調査報告を受け、その報告をもとに、調査研究結果として種目ごとにまとめたものが、本日配付しました「平成27年度津市教科用図書調査研究委員会 調査研究結果報告書」でございます。また、開かれた採択としていくために、調査研究委員会には学校関係者以外に保護者の代表者2名に委員として参加いただき、御意見をいただいておりますので、後ほど種目毎に紹介させていただきます。なお、教科書展示会では、事前送付いたしましたように、来会者の方々から、様々なご意見、ご要望をいただきましたが、調査研究委員会としては、調査研究結果に反映すべき内容はないと判断いたしました。この後、種目毎に調査員代表から各社の調査結果並びに、調査研究委員会が候補に選定した教科書の特徴等についての説明をいたします。

坪井委員長 今の説明について質問や意見はございますか。

坪井委員長 それでは種目ごとに採択を行いたいと思います。(調査員代表)の代表と担当指導主事の入室をお願いします。

(調査員代表、指導主事入室)

坪井委員長 それでは、理科の調査結果について報告をお願いします。

(理科の調査員会部長から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果報告)

調査員代表 調査員としては、啓林館の「未来にひろがるサイエンス」が最も適切であると判断しました。その理由としては、基礎・基本を丁寧に記述し、それら基礎・基本を活用して、思考・表現する力をつける内容になっているからです。2点目は、実験・観察に際し、生徒が目的意識を持って主体的に活動できるような工夫がなされているからです。実験方法についても、写真や図を適切に組み合わせで説明しています。3点目は、各単元で小学校の学習内容を振り返る工夫がなされていたり、学習の目標が明確に示されていたりするなど、生徒が見通しをもちながら授業に取り組めるようになっているからです。4点目は、「環境編」を配置して持続可能な社会を作るための科学的な見方や考え方を総合的に育むように工夫されているからです。5点目は、「ぶれいく time」「広

がる世界」「はたらく人に聞いてみよう」など日常の生活と科学の関係を紹介するコラムが多く配置されているとともに、「部活ラボ」というコーナーも加えて、理科の必要性や化学の魅力が実感できるようになっているからです。6点目は、鮮明な写真や分かりやすい図などが効果的に配置され、生徒が理解しやすいように工夫されているからです。7点目は、「サイエンス・トラベラー」というコーナーで三重県に関する資料や写真も含めた地域資料を豊富に取り扱い、生徒にとって親しみやすい内容となっているからです。8点目は、別冊「マイノート」を有効活用することで、これまで以上に、基礎的・基本的な知識や技能の定着、科学的な思考力を高めることが期待されるからです。

坪井委員長 ありがとうございます。いまの報告につきまして、委員の皆さん質問はありますか。

松本委員 啓林館は、マイノートという別冊が特徴だと思ったのですが、どのような使い方を想定されているのか、あと、他の教科書と比べて、本文に少し空白があり、見やすくなっているのですが、ただ、記述量としては少なめかなという感じがしまして、先程の説明にも、基礎基本を丁寧に記述していましたが、たとえば津市の学力上位レベルの中学生の学力を更に向上させるということを考えた時に、この教科書で対応できるかという点についても伺います。

調査員代表 まずマイノートの使い方ですが、章末問題や単元末の問題を学習する場合、このノートに直接書き込むことが出来るので、効率的に学習の振り返りができます。また、問題集という扱いだけではなくて、サイエンスアプローチの部分で、実験前に、子どもたちが話し合いであるとか、予想を立てるといった部分で活用できます。あるいは、定期テスト前に問題の部分を実際に教室でやってみるなど、いろいろな工夫で、幅広い取扱いが出来るのではないかと考えております。次に、発展的な内容ですが、確かに東書や教出は、問題量については、より多い部分はあるのですが、啓林館でも十分でありますし、マイノートの力試しの部分で発展的な学習につきましても十分に対応できるのではないかなと考えております。

松本委員 ありがとうございます。

庄山委員 調査研究結果報告書の⑥で、化学反応の色や変化が、鮮明な写真で示され、原子モデル、電気回路図も分かり易いものが入り入れられているとあ

りますが、例えば啓林館の、113ページにありますいろいろな実験器具の提示で気になるのが、ブルーの背景の上にフラスコなどの写真があって、子どもたちにとって見にくくないかということです。他の教科書でもあるのですが、その点についてはいかがでしょうか。

調査員代表 確かに113ページは見にくいと思います。ただ、指示薬を使用する実験で、指示薬の色が5色程に分かれているような写真が載っているのですが、啓林館は、それぞれの色に何色何色何色という具合に説明を記述しています。この点は、調査会議の時に、配慮されているなという見方をしました。

庄山委員 ちょっと見にくいなあという感じがしましたが、その他の面におきましては、啓林館が非常に丁寧で、三重県の内容等も多いので、津市の中学生に向けてよいものであると感じております。

滝澤委員 質問ではなくて、意見ですけども、私も啓林館がよいと思っていて、特にこのマイノートが非常に見やすく、また自分で考えるのに役立っているなど、他にない特徴を持っています。三重県の内容もありますし、見易いとも思ったのですが、気になるのは、説明の字がかなり小さいですね。子どもたちって、小さいのはあまり関係ないのかもしれないけど、大きな字に目が行って、細かいところは飛ばしていくというようなことはないのでしょうか。

調査員代表 授業者がポイントであると思った部分は、字の大きさによらず、きちんと指導します。

滝澤委員 なるほど、そういうことですかね。ちょっと見にくい感じを受けたのですが、内容的には私も啓林館が一番よいと思っております。

坪井委員長 どの教科書もかなり努力して、上手く作成されていると思います。そこで、昨今言われている「理科離れ」という視点で、それを防ぐ教科書づくりについてどのような議論がなされましたか。

調査員代表 理科離れとよく言われますが、理科の教員の実感としては、決して子どもたちは理科嫌いではないと思います。ただ、例えば力や電気の分野では、計算が出てきます。そうすると、数学・算数が苦手な生徒は、そこで躓いてしまうことはあります。啓林館は、計算の仕方も記載されておりますし、その点への配慮もなされていると考えております。それぞれの会社の工夫を約2

0項目の観点で評価し、啓林館の評価が最も高いという結果になりました。

石川教育長 まとめを一つのポイントとして議論をしたいので、そこで学校現場のことをお伺いするのですが、例えば啓林館の、1年生の54ページと大日本の60ページですが、まとめの手法が全然違いまして、大日本の方はデータブックのような語句のイメージで書いてあるのですが、啓林館は必要な説明も書いてある。東書はやや細かすぎる。学校現場で、まとめに使う時に、啓林館は、ポイントの説明と学習したページまで入っている、大日本の方は語句中心で整理されている。授業の振り返り等で、使いやすさの違いというのはあるのでしょうか。

調査員代表 基本的には、まとめという部分は、主として子どもたちが自分で、振り返りをするためにあるもので、語句だけでいきますと、知識詰め込みということになり、言葉は知っているけども中身知らないということになりかねないとも考えられます。使い勝手は個人によって色々だと思いますが、啓林館の方がよいと思いますし、また、これも啓林館の特徴ですけども、付属のブルーシートで隠したりできるなど、色々な部分で子どもたちがメリハリを付けて学習できると思います。

坪井委員長 他にはよろしいでしょうか。ないようでしたら、ありがとうございました。

坪井委員長 それではですね、事務局の方から先般行われた調査研究委員会、その時の状況報告、補足説明になるとは思いますけども、よろしく願いいたします。

教育研究支援課長 理科の調査研究委員会の場で、委員長から啓林館と競ったものはありましたかという質問がありましたが、啓林館の次を選ぶとすれば東書という声もございましたけれども、図の説明については、啓林館の方が東書より適切であるし、相対的に見て分かりやすい、また、星座のところでも、啓林館が分かりやすいのではないかというようなご意見がございました。マイノートについても、調査員からもありましたように、実験観察とリンクしたような問題があって評価できるという意見が出ておりました。

坪井委員長 支援課長の報告について質問があれば、よろしく願いします。  
石川教育長 我々、教育現場にいない者が考えている以上に、現場はこのマイ

ノートの評価が高いと思いますけど、現場の先生たちは分冊になっていて利便性が高く、子どもたちに指導がしやすいという意見が多かったと思います。

坪井委員長 調査研究委員会の補足説明ですけど、啓林館というのは数学でも別冊の形式ということで、現場の先生方からも、使いやすいという声をいただきました。ただ、私は、教科書の在り方が少しずつ変わってきたのかなあと 생각합니다。教科書の基本的機能プラス問題集みたいなものを付けるということで、学力の定着が図りやすく、別冊にしておいて宿題にするなど活用の仕方は広がっていくとは思いますが、それが本当にいいことなのか、本来的な教科書としての機能はどうか、そういうこともこれから考えなくてはいけない。多分これからもこういう内容は増えてくるので、調査研究委員会ではそんな話もしました。

庄山委員 まったく同じような意見を私も持っています。それと、理科だけではないのですが、写真等のデータをたくさん載せるために教科書がどんどん重くなって、子どもたちに負担がかかっていることも気になります。

坪井委員長 まあ、採択のこととちょっとずれるかもしれませんが、これからの教科書というのは、どうあるべきかというそういう議論は今後していく必要があります。版型もだいぶA B判に変わってきており、これも重さに関わってきます。それから、ビジュアル的なものは、子どもの興味を引くし、先生方も教えやすいが、逆に余りにもビジュアル的なものがいっぱいありすぎて、考えて調べようとしめないなど、理科に限らずですね、教科書というのは本当にこれからどういうものであるべきか考えるべきです。

石川教育長 個人的には、学図も捨て難いです。しかし、学図と啓林館2社で比較をしますと、やはりまとめの部分が、学図198ページでは、「花はめしべ、おしべ、かべん、がくぶちから出来ている」って赤で初めて出てくるのですが、「めしべ、おしべ、かべん、がくから出来ている」と文章化され表現されています。一方、啓林館では、図を使って示されており、説明が必要な部分は文章で説明されています。そういう点で啓林館の方が適切だと思います。また、各単元の中に出てくる説明文についても、非常にコンパクトにまとまっているのが啓林館であります。

坪井委員長 他にどうですかね。

石川教育長 ご意見をお伺いしたいのですが、東書のまとめの仕方が、62ペ

一ジなんかはちょっと詳しすぎるかなあと個人的は思うのですが、どういうふうに思われますか。東書は、本文の方は結構コンパクトで、あまり細かくは書かれていないのですが、その割にまとめがちょっと詳しすぎるかなという気がします。何故そんなことを言うかということ、この膨大な情報量をいかにコンパクトにまとめて、頭の中に何をインプットしておくかということも大事になるので、学習のまとめを子どもたちが見た時に、頭の中にどう格納していくのかなというところがポイントになるのかなと思ったからです。その点で、東書は少し情報量がまとめとしては多いと思います。

坪井委員長 調査研究委員会は、ほとんど教育関係者ですから、詳しく見られる良さもあるかもしれませんが、逆に見えない部分もある。教育委員会はそれではなく、教育関係以外の目からも教科書を見ていただく、そういったところで最終的に採択をするわけですから、教育長、決して遠慮せずですね、僕はそういう視点で言ってもらった方がよいと思います。気が付かないところがあると思うんでね。どこに視点をおいて教科書を見るかということにも関わってくるかもしれませんね。

石川教育長 調査会の説明は、教える側がテキストとして使う時に、使いやすいかどうかという視点や子どもたちがこれを見て凄く見やすいかどうかという視点を中心です。しかし、将来、社会人になった時にどういうふうに頭の中の整理が出来るのかとか、データを格納するのかという視点も大切です。

坪井委員長 我々も、自分がずっと教育に携わってきて、自分らが教員になった時代から比べて、かなり教科書会社が工夫をして、内容、そして今のテーマに沿ったものも取り入れようとしている。先ほど言ったマイノートというのも、子どもたちへの知識・理解の定着の一つの方法として、啓林館は考えてきたのでしょう。子どもたちへの知識伝達と効果的な活用方法への思いの強さが出てきているのかなという気がします。また、啓林館は長く使われてきたので、慣れというのが先生方はあるのかもしれないですね。

教育研究支援課長 過去においては、採択地区が中勢の範囲でしたけれども、東書を使った時代もあります。

坪井委員長 いろいろ出していただいたのですが、ある程度一つに絞っていききたいなあと思いますけど、これをというご意見でもよいですし。

庄山委員 学習内容の整理につきましては、テスト前とか時間がない中で、単元の学習内容を確認したいという時に、最終的に読むことが多いと思うんですけど、その時に生徒たちがどちらの方が、今まで学習してきたことのまとめとして分かりやすいか、ある程度学習してきたことが頭に残っていて、もう1回か2回か見るわけですので、東書は、非常に丁寧です。だけど、見るのに時間がかかる一方、啓林館のは、説明は少ないのですが、図で花から果実になって、こことここがこういうふうになるんだよって、本当に分かりやすい。まあ、どちらがよいかというと、その子どもたちによるんですけど、今までの学習がどれだけ積んであるかによって、ひょっとしたら東書の方がきちっと書いてあるからよいつていうこともあるかもしれませんが、ある程度理解している子は、啓林館の方がよいかと思いますけど。教師の側としては、今までずっと学習を積んできたのだから、まとめは啓林館の内容がよいのかなと思っているのではないのでしょうか。

石川教育長 まず振り返る時にページ数が入っているっていうのは、使い勝手がよいかなど。ちょっと分からない時に教科書のページをぱっと見られるのは、結構探すのも大変なので、これはインデックスとして使い道がよいかと思います。

松本委員 まとめ部分は、学図のような記述では文全体で覚えなくてはいけませんが、啓林館とか東書はポイントが明確なので、まとめ方はこちらの方がよいと思いますね。

坪井委員長 そろそろ一つにしていきたいと思います。いろいろご意見があつて、私は提案された啓林館ということもあつたのですが、啓林館ということで、完璧ではないですけど、よろしいですかね。いろいろ課題はあるかもしれないですけど。議論の中でだいたいそういう方向が強いなということを感じましたので、啓林館の理科の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として採択することを決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは津市教育委員会としては、啓林館の理科の教科用図書を平成28年度使用中学校用許可用図書として採択することを決定いたします。以上です。

坪井委員長 次に英語の採択を行いたいと思います。調査員の代表と担当指導主事の入室をお願いします。

(調査員代表、指導主事入室)

坪井委員長 それでは、英語の調査結果について報告をお願いします。

(英語の調査員会代表から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果報告)

調査員代表 現在使用しています学図の **TOTAL ENGLISH** 以外の5社の中で、東書の **NEW HORIZON** を推薦候補としました。そして、**TOTAL ENGLISH** と **NEW HORIZON** を比較調査した結果、東書の **NEW HORIZON** がより適切であると判断しました。その理由をご説明します。1点目は、小学校の外国語活動との接続がよりスムーズになるからです。**NEW HORIZON** の方が文字の指導に入る前に「あいさつ」や「身の回りの英語」など、小学校で慣れ親しんだ題材を多く取り入れています。さらに、**TOTAL ENGLISH** では、be動詞の導入が一般動詞の後になっていて、指導しにくい面があるのに対し、**NEW HORIZON** は、be動詞、一般動詞の順に導入されており、生徒にとって分かりやすい構成になっています。2点目は、目標の明示についてですが、**NEW HORIZON** はUnitの最初のページの上部に、生徒にとって理解しやすい表現で学習のねらいが明示されています。題材については、両者とも身近な話題から世界的な視野に立ったものへと広がって行っています。その中でも **NEW HORIZON** は1年生では「英語を通じて新しい世界に出会おう」、2年生では「視野をひろげよう」、3年生では、「新たな視点で見直そう」というテーマで、日常生活の場面から今日的課題や生徒の発達段階や興味関心に即したものが選定されています。3点目は、構成・配列について、**NEW HORIZON** は、基本文が目立つように配置され、日本語での説明もあって理解しやすいものになっています。また、発信力の育成という点でも、ALTとの授業や **Speaking Test** につなげやすいようになっています。4点目は、創意工夫において、両社とも様々な工夫をしていますが、**NEW HORIZON** は、デジタルコンテンツを活用し、IT機器を使った授業づくりがしやすくなっていて、大型テレビやタブレットを用いた効果的な授業の実施が期待できるからです。辞書指導についても、**NEW HORIZON** では、1年生の早い時期から系統的に取り組むことができ、生徒が自学自習できるような工夫がなされています。単語の書き方、文の書き方、音の変化、発音記号についても丁寧な説明がなされています。5点目は、

使用上の便宜において、NEW HORIZON は大判で紙面にゆとりがあるため、見やすくなっています。まとめますと、英語による発信力を身につけさせるための内容、文法指導と言語活動を一体的に行い、4技能を統合的に活用するコミュニケーション能力の育成、身近な事柄からグローバルな内容まで幅広いコミュニケーションが図れるような創意工夫がなされていることから、東書のNEW HORIZON を推薦したいと思います。

坪井委員長 ただいまの報告について、質問がありましたらお願いします。

庄山委員 現在使っている教科書と大きな違いがあるわけですね。Be 動詞の扱いが先に来て、現在使用している学図は形容詞が先に来ているのですが、我々、特に私の年代は Be 動詞が先に来ていまして、この教科書はちょっと驚いたんですけど、一般動詞が Be 動詞よりも先に来ているのですか。

調査員代表 はい、そうです。

庄山委員 そのところが大きな違いなんですよね。

調査員代表 小学校からの接続というところで、やはり1年生の最初でも自分のことを表現したり、あるいは相手のことを表現したりしていく上では、やはり Be 動詞というのが非常になくてはならないものであります。そういうことから、TOTAL の方は一般動詞の後に Be 動詞の1人称、2人称が出てきまして、その後で、Be 動詞、一般動詞の3人称とういうのが順番になっております。自分のことを表現したりするっていう時、もちろん I like soccer. のように好きなものを言った時は一般動詞が必要になるわけです。自分自身の名前であるとか、自分自身のことを説明する場合には、Be 動詞の導入というのがやっぱり先にある方がスムーズにしやすいであろうと、そういう意味においては NEW HORIZON の方は Be 動詞をまとめて、まず1人称、2人称、3人称とまとめて指導した後で一般動詞、さらには命令文という順番で出ておりますので、こちらの方が小学校で英語に慣れ親しんでいた子どもたちにとっても、さらに自分のことを発信していく上においては、スムーズに行くんではないかというような結論に至りました。

庄山委員 小学校でも英語活動で自分の自己紹介的なことをたくさんやっていますね。今まで教科書を使っておられて、ちょっと違和感を感じておられた部分はございますか。

調査員代表 調査委員会の中でも、やはり一般動詞から入ってくることには少し違和感があるというか、Be 動詞が最初に来るのが自然な形なのではということでした。

石川教育長 NEW CROWN に課題があれば教えてほしいんですね。もし課題がないとすれば、これと比べて、東書との比較、違うところを教えてください。

調査員代表 NEW CROWN の方も調査の中では、これは非常にいい教科書であるということは話をしていました。NEW CROWN の方はどちらかというとしっかりとした読み物がたくさんございます。その中で読まず部分が非常に多いといいますか、たとえば1 ページで扱っている単語の語数は、NEW CROWN は NEW HORIZON と比べると多ございます。確かにたくさん量を読んで学ぶということの大切さはあるわけなのですが、様々な子どもたちを対象としていく中で、少し分量的にも単語の数等が多くて、1 時間で対応していくには少し難しいところがあるという意見が出ていました。

石川教育長 そうすると、NEW CROWN の課題というのは単語の数が多い。

調査員代表 ひとつは単語の数というか、非常に内容としては素晴らしいところがあるわけですが、やっぱり授業で扱っていく中では分量が非常に多いというところがあります。

石川教育長 ちょっと参考にしたいので、どこかと比較して、分量の多いところを教えてください。

調査員代表 たとえば Let's read、126 ページや128 ページを見ますと、単語の数が書いてございます。174 words ですか、このように非常にしっかりと読ませるといふところがありまして、単語の数が多くなっています。NEW HORIZON は、たとえば129 ページの Let's read とかを見ていただきますと、140 words です。それから、2年生、3年生と上がりましても、NEW CROWN の方はしっかりと読ませるといふところがございます。授業で進めていく上において、少し負荷がかかるのではないかという意見もございまして、NEW CROWN については、そういうところが選定の中ではマイナスになったところがございます。

石川教育長 ということは、読み物の単語の数が多いという違いがあるだけで、Be 動詞の流れが分かりやすいとか、子どもの関心があるような題材が選んであるというようなことでは、よく似た考慮事項ということですか。

調査員代表 大きく言えば、そういうことです。

坪井委員長 他にどうですか。

庄山委員 2点お願いします。ひとつはですね、1年生の NEW HORIZON ですけれども、辞書がよいという説明がございましたが、1年生のこのアルファベットもまだ書くことができない時期に、辞書が出てくるのがよいという考え方について説明をしていただきたいのです。さらに、この全ての教科書なんですけど、子どもたちが一番ネックになりますのが、書くのは書けるんですけど、読む力、アルファベットでもない読み方、ローマ字読みでもない読み方、その発音が非常に難しい。読み方を分かりやすくする努力をしている教科書というのはありませんか。

調査員代表 まず、ひとつ目の方から。辞書指導につきましては、いわゆる系統的にやるということが大事だと思いますが、その時期ですけれども、アルファベットを習いまして順番といいますか、アルファベットの順番を習った後で、単語はアルファベットが組み合わされて出来ているということ、そういったことをまず辞書を使うことで、さらに認識をしていくということでは早くやるということに意味があると思います。さらに教科書の NEW HORIZON におきましては、その後も辞書の中のいわゆるいろんな表示、カンタブル（数えられる名詞）やアンカンタブル（数えられない名詞）のようなものも52ページに記述してあります。2年生では辞書の中にいろんな意味があって、どれを使うのかということ、すなわち段階的に NEW HORIZON については辞書指導も出来ておるといってもございます。ですので、時期的には、どの時期がというのは色々な考え方があるかも知れませんが、アルファベットの順番に並んでいるということを確認すること、実際、自分で調べてみるという体験を早い段階でするということについては、効果があるというふうに考えております。

庄山委員 そうすると、教科書にこの辞書指導がなくても、ある時期、1年生の段階でも辞書の指導がされているということですね。

調査員代表 1年生の1学期に辞書指導はされます。

庄山委員 辞書を持たしているのですか。

調査員代表 橋北中の場合ですと、学校に辞書が1クラス分用意してありまして、辞書指導する際には図書室から辞書を持って行って、同じ辞書を使って学習します。

庄山委員 分かりました。

調査員代表 それから、フォニックスの指導の部分ですが、NEW HORIZONの英語の発音に慣れようというところで、14ページ辺りを見ていただきますと、ここで先生がおっしゃられました、綴り字と発音の関係が非常に難しいことがあります。このページ等を使ってCD等の英語を聞いてそれぞれの音と綴り字を結んでいくというような活用でありますとか、やはり慣れ親しんでいくということが非常に大事ですので、そういった取組がたくさんこの教科書では扱われているというところがあります。もちろん、他の教科書でもフォニックスを使った教科書、たとえば、現在使用しておりますTOTAL ENGLISHの中でも、10ページ、11ページにも綴りと発音の関係ということで出ておりますが、部会の中でも色々比較をする中で、NEW HORIZONの方がより扱いやすいし、子どもたちにも理解もしやすいのではないかというような結論が出ました。

坪井委員長 他よろしいですか。それでは私の方から、特に小・中の連携という中で、英語というのは、理科や社会と違って初めて中学校で習うという点、なんとなく1年生の教科書が非常にキーポイントになってくるんじゃないかと思えます。また、1年生の段階で好き嫌いというのが出てかなり変わってくるという、だから今までの慣例に沿って説明すると非常に苦しい部分があつて、似たり寄ったりになってくると思うので、やっぱり小・中の一貫の流れからいってですね、中学生になって初めて開く教科書、子どもたちに非常に使いやすいとか親しみやすい、もちろん教師のねらいというのも必要だと思うんですけど、そういった観点から選ぶのがある程度大事かなあと思えます。そういう意味では、小学校の段階からあいさつとかは結構やっているから、教科書を見てもずいぶんそういうのって入っているじゃないですか。それから、Be動詞から入った方がよいというのも、かなり各社そういう形で使っている。そうすると特にここっていう理由があまり分からないっていうか、インパクトがね、このホライズンがよいですよとか、ちょっと使いにくいですよとか。だから、小・

中の連携の視点から言うと、こういうところだとかいう新たな視点のところでPRしてもらえればと思います。それからヒアリングって、私たちの時代はあんなに勉強したんだけど、いまだにしゃべれないものだから、そういう意味ではヒアリングってすごく大事じゃないかと思うのです。その辺の観点から言うと、この辺がちょっとよいとかですね、そういったところが、もしおっしゃっていただけるのならお願いします。

調査員代表 確かに各社とも、小学校との接続ということ意識して作られております。そんな中でも、見ていただきますと非常に、小学校の時に使っていた教科書のそういう部分もありますが、NEW HORIZON を見ていただきますと、まず単語とといいますか、TOTAL 辺りが会話文から入っているところもあるのですが、単語に慣れ親しんでいる、普段の生活の中でも出てくるようなそういった単語から入っておりまして、数字もそうですが、英語を得意と感じていない子どもにとっても、この教科書の最初、導入の際に、よしやってみようかというような思いが出てくるような内容になっているように思います。さらには誕生日のことであるとか、その後でアルファベットの方へ導入が行っているわけですが、まずは音声の部分の聞き取りから、スピーキングの部分がしっかりとありまして、その後でアルファベットの書く方へとつなげられているというのが、NEW HORIZON が優位な部分かなと考えております。

坪井委員長 子どもたちが英語に入っていくときに、無理のない流れというのが、他に比べれば上手く伸ばしているではないかというご説明ですね。

石川教育長 今回の説明で Let's read の文字数のお話がありました。2年生、3年生とも NEW CROWN より NEW HORIZON の方が字数としては少ないということでした。書いてあるデータだけ見ますと、確かに資料でたくさん読み物は付けてあるので、これは資料だけなので関係ないと思いますが、分量が多い少ないというのはいろんな教科であるわけで、これが多すぎると子どもたちに負荷がかかるというのは分かります。ですが、中身が多いということだろうと思います。読み物の字数というよりは。

調査員代表 最後のところで例を挙げて示しましたが、他の途中の Lesson 中の、ひとつひとつの単元の字数も多ございます。そうすると、幅広い子どもたちに指導していく中で、いろいろと焦点を当てていくところで、字数の多さだけ捉えても、非常に苦手意識が出てくるというようなことも心配されます。

石川教育長 了解しました。

松本委員 教科書調査委員会が出ていたと思うんですが、ICT機器を使うと授業がしやすいという点ですけども、このNEW HORIZONの特徴として、そういう教室で使うためのICTを使える情報が、CDとかが付いているということでしょうか。

調査員代表 教科書の中でそういったデジタルコンテンツが対応できるような教材が、この教科書には付いています。

松本委員 生徒ひとりひとりによるというよりも、みんなで一緒に教室で聞くようなものですか。

調査員代表 使う者にもよると思いますが、たとえば、私の学校でしたら大型テレビに映し出して学習の補助と言いますか、助けにすることができかなというイメージを持っております。他にも、インターネットとの接続も出来るようになると、具体の部分で説明できるといいですが、こういった教科書1ページのところに、Dのマークの説明がございますけれど、こういった取組がしてあるのは東書が一番かなと思います。

坪井委員長 よろしいでしょうか。

石川教育長 今の話で、例えば、1年生の教科書でいくつデジタルコンテンツが使えるんですか。10個、20個あるんですか。

調査員代表 そんなにないです。数自体は少ないです。例えば、3ページの一番上のところにあるのが一つ、例えば、110ページです。

石川教育長 ここの会社のホームページにいくと、ここの教材に関する部分が出てくるよという意味ですか。

調査員代表 そうです。

坪井委員長 じゃこれで終わらせていただきます。

(調査員代表、指導主事退室)

坪井委員長 それでは、調査研究委員会の状況報告についてよろしくお願

ます。

教育研究支援課長 大きく分けて2点ございます。一つは、先程も話し合いがございましたが、小学校高学年には現在外国語活動という時間がございます。英語に慣れ親しむことやコミュニケーション能力を高めるという目的で行われているわけですが、英語になじんだ子どもたちが中学校に上がって多様な学習形態に触れたときに、例えば文法ですが、それまでに培われた興味関心がはがされるのではないかという心配がございます。その点について、現在上がっております、NEW HORIZON は小中の接続がしっかり配慮されております。2点目は、調査研究委員の開かれた採択という趣旨に則って、保護者の中からお二人が入っていただいているわけですが、実際に教育を受けている子どもの保護者の目から、お話しをくださいました。子どもの声ではありますが、「1年生で勉強していて、be 動詞が途中から出てきて、非常にわかりにくい。」ということでした。調査委員の方々もその子どもの声には納得をしておりました。

坪井委員長 ありがとうございます。今の事務局からの調査研究委員会の状況ということで報告について、なにか御質問ありますでしょうか。

坪井委員長 滝澤委員

滝澤委員 be 動詞が先に出てくるのがそんなに指導がしやすくなるんですか。私は「I have a book」から始まった方なので、いつ be 動詞が出てくるか楽しみにしていました。生徒は生徒で教えられたら受け入れていくのではないかなど。むしろ指導する、教える側で、この順番が教え易いというような視点じゃないかなど。

庄山委員 私、NEW CROWN がすごくいいなと思うんですけど、18ページの教室で使える英語、これがここに出てくるのはちょっと無理かなど。この位置では無理なんで、これを先生達は抜かしていくのかなど思っているんですけど。Aとか、Bとかやった後で、教室で使える英語が出てくるのは難しすぎるかなど。

石川教育長 付録ですか。

庄山委員 付録ですね。すごくいいんですけど、少し高度すぎると思います。

滝澤委員 質問ですけど、子ども達は小学校から英語に慣れ親しむということ

で、親もわりと早い時期から英語の教室だとかに通わせて、慣れ親しませようとするので、わりとそういう子は進んでいるので、分量が多くても、一部の生徒は、関心を持って読むのではないのでしょうか。別にここに書いてあっても邪魔になるものではないし、少し難しいものがあってもいいのかなと思います。私も NEW CROWN がいいかなと思います。

庄山委員 それが学校教育の難しさなんです。家庭が英語の教育に関心があつて、英語の力を付けたいというのであれば、小学校3、4年から英語の塾や Lesson に行ったりしている家庭もあります。反面、行かそうと思っても行けないような家庭もあります。それを全部受け入れて中学校は授業をします。塾に行かせてもらってなくても、小学校で伸び伸び英語活動をしているわけですけど、ある程度差がありながら、だけど、小さい頃から塾に行っている子がすごく英語が得意になって、やっていない子が英語が全然駄目かという、そうでもない。これが子どもの力がすごくて、英語がずっといいという子もいる。ですから、小学校から中学校1年生で出会う教科書、英語の先生、周りの友だちの影響はすごく大きい。子ども達は、多少難しい内容が入っていても興味あれば読むし、今、おっしゃったとおりなんですけど、教科書を与える側としては、どこに充てるかということがあるんですよ。

坪井委員長 教科書採択というのは全国どこの生徒でも教育を受けられるように作られたものですから、この教科書がどの子にも行きわたる公教育として、適切なものかどうか、教育の水準をある程度維持する内容がどうか、ということで作っているものです。それは置いておいて、水準は満たしているのか津市にマッチしているのかという視点で議論していただければと思います。津市は小中一貫教育をやっているので、前回と違った教科書会社の提案ということなんですけど、変わる問題はないにしても、それなりの理由というか、説明ができるようにしておかないと、説得力がないので、そのへんの確認だけはしておきたいのですか、よろしいでしょうか。

石川教育長 英語は結構難しいので、前回使っていたのが学図から、今回、それを東書に変えようという中で、三省堂の NEW CROWN が捨てがたいということが大きくなって、悩んでおります。個人の意見で申し訳ないのですが、並びは教員が教えたらいいのでそんなにないのですが、保護者の方も子ども達も対話形式から入ることが多いですね。NEW HORIZON、これいいと思います。その前に、三省堂は NEW HORIZON と比べた時に目次を見ても端的なんですけど、東書の目次は、緑で書いてある「アルファベット始めました学校で」、

NEW CROWN というのは、頭に I a m～が出てきます。それが、Lesson 1 では、英語の並びを見るだけで何をこの章で言おうとしているのかわかります。NEW HORIZON の Lesson 2 では、学校のことを学習しようとされているのかというと、必ずしもそうではなくて学校をたまたま題材にただけで、言おうとしていることは三省堂の Lesson 2 のように、my school、私の学校を、それをどうふうにこれはとか、紹介しようとしているのです。そういう意味から言っても、こちらの教科書の方が効果的に配置されるのかなという気がしています。ちょっと悩むのは、これの課題として、英単語の数が多すぎるというのがありましたけど、それも小学校 5、6 年で英語活動が入って、3、4 年生もといった動きの中で、今後 4 年間、量が少ない方がいいのか、それだけで選定の理由にしがたいところがあるわけで、悩んでいるところです。

坪井委員長 事務局からちょっと。

教育研究支援課長 本日、説明員につきまは、再度、教科の専門性をもった立場から意見を聞きたい場合があるかということで今も待機をしております。いろんな疑問が出てきている場合には説明員を呼ぶことはできますので、もし、その必要があったら言っていただければと思います。

坪井委員長 8 月 31 日までに採択していかなければならない制限もありますし、慎重にすることも大事ですが、ある程度のところでは落ち着いていかないと。だから、石川教育長が言われたように、参考までに、他の採択協議会なんかでも、三省堂は辞書なんかも作っている会社ですから、英語は得意なところで、結構採択されているからそれなりの良さがあるでしょうね。今回、そんなに三省堂の議論が出てこなかったですけどね。

石川教育長 委員長、提案なんですけど、その、例えば、書籍としてどちらが優秀なのかという見方をするとどうしても NEW CROWN という個人の意見を持ってしまうんです。ただ、これをテキストとして使うことで初めて教科書として意味があるので、例えば、使われる英語の教員の方がずっとこちらを使ってきて、これまで積み上げてきているのはあるので、内容は少し差があるにしても、そういうのでこちらを使いたいというのであれば、それはそれで意味があるんだと思います。そのへんの確認を再度させていただければ、判断するときには助かるんですが。

坪井委員長 現場の意向をもう一度確認したいということですか。

石川教育長 量の問題も、多分、文字数が多いということではなくて、子ども達にこれを1年間で全部やりきれぬのかどうかということに、若干、多すぎるという意味だというふうに理解したんですが、この二つを捉えて皆さんのご意見の中で、生の声を聞けたらと思います。どんなものでしょう。

坪井委員長 それを受けて、もうある程度決めさせていただくということで。

(説明員、指導主事入室)

坪井委員長 それじゃ、ご推薦いただいているホライゾンともう一社別のところが捨てがたいということで、学校現場にとって使いやすさはどうかということなんですが、もう少し足していただければ。

石川教育長 個人的な見解で申し訳ないんですが、読み物の単語の数が多いということではなくて、学校の授業をする時にテキストとして使うときに、少し全体的なボリュームが大きいので、3年間で使い切ってやっていくには少しボリュームが多いので、こちらの方が子ども達の理解をするためにはこれくらいの量が適切だと判断かなとまず理解をしました。もう1点が、単なる書籍としてはこの NEW CROWN が、他社のいろいろなものがあるんですが、書籍として単に見た場合の評価の部分と、教師が学校現場でテキストとして使う場合にどちらがいいのかという視点があると思います。書籍として見た場合、これは個人の意見で、特に、教員がテキストとして使う場合、このホライゾン、こちらの方がより教え易い、あるいはこういう面で効果的に使えるという点があれば、そこをちょっと具体的に教えていただきたいなと思います。

調査員代表 分量だけではございませんが、実は、私自身最初は NEW CROWN がいいと思っていただけで、部会での他の先生方との話の中で、授業を進めていく上手な使い勝手の部分で NEW HORIZON の方が勝つという話になり、全員総意で NEW HORIZON になった訳です。例えば、NEW HORIZON の58ページを見ていただきますと、どこのページでもそうですが同じパターンで指導ができるようになっているのですが、NEW CROWN はこのゲットというところが基本的なことや文法を学ぶところなんですが、GET の後に USE が出てくるんですが、この辺の関連性を持たせて指導していくわけですが、NEW HORIZON のほうが通して同じようなトーンで指導ができて、子ども達にとっても、授業ごとにやり方が変わらなくて、ずっと同じような構成

になっているので、理解しやすいというところもありますし、それから、先ほど強調して話したところですが、基本文の導入というのは非常に英語の授業においては大事なところでして、その点では NEW HORIZONの方が基本文が非常に見やすくなっておいて、さらに基本文が本文のパートの中で同じ文が使われていることから、定着がしやすいところがあるのと、後の基本練習のところも分量的にも子ども達にとって適当な量と内容であるとのことで、指導のあり方、教育長がおっしゃられたように、指導する上において、やりやすいという結論が出て、総意で NEW HORIZON に決まったということです。

英語担当指導主事 補足させていただいていいですか。先ほど、教育長がおっしゃったように書籍として NEW CROWN は書籍として非常にいいです。内容がよいです。題材の取り上げ方、人権のことから、環境のこと、いろんなことが入っていて、読んでいて非常に感動できるような物語が多いです。その分、文字数が多くなるのは仕方がないので、そういう意味においては、とても量が多くなってしまいます。ここに何 words とか書いてあって、読ませるような形式になっていますが、これも入試に対応したやり方です。というのも一時間でこれ一語ずつ訳してやりましょうというのも、入試の時に長文を読んでも役に立たない。だから一斉にこの長文を読ませて、その後授業を展開していくというやり方がこの NEW CROWN のやり方です。このやり方はずっと踏襲されていまして、マイナーチェンジでもこのやり方が踏襲されています。それに対してホライゾンというのは、言語操作といいまして、特に文法とか発話とかリスニングとかに重きを置いています。内容のクラウンに対して言語を操作する NEW HORIZON です。NEW HORIZON のマイナーチェンジと言いながら、今回、大幅にチェンジしていまして、採択数は全国で一番多い割に先生達は使い辛かったんですね。読み物も面白くない、文法に偏っている、という欠点があったんですが、今回、それが全部解消されていて、私達が見たときに非常に使いやすくなっている。そういう意味で、全員、NEW CROWN がいいと言っていたのですが、実は、ホライゾンは一番最後に扱ったのですが、ホライゾンを見た瞬間、こっちだというふうに現場の先生達も言っていた感じでした。弱点を全て取り払ったような感じの印象がありました。

坪井委員長 どうもありがとうございました。他よろしいですね。お戻りください。

(調査員代表、指導主事退室)

坪井委員長 ご説明をいただきましたが、疑問を解消いただきましたでしょう

か。

石川教育長 疑問解消で分かりやすかったです。

坪井委員長 その割に何故出てこなかったのか。今までノーマークだった三省堂が出てきたような。どうでしょうか。説明していただいて、分かりやすさというのも大事な視点ではないかと思います。それでは、東書の英語の教科書を平成28年度使用教科用図書として採択することに決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは、津市教育委員会としては、東書の英語の教科書を平成28年度使用教科用図書として採択することに決定します。

坪井委員長 それでは、音楽の調査結果について報告をお願いします。

(音楽の調査員会代表から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果報告)

調査員代表 鑑賞教材を中心に、授業をする側の教員が使いやすいか、また、授業を受ける側の生徒にとって分かりやすいものになっているのかという視点で比較・検討しました。鑑賞教材は、内容的には、ほとんど変わらないのですが、全体的に、教芸の方が作曲者について詳しく記載してあります。例を挙げると、ベートーベンの耳が不自由であったことは、教出では記載されておられません。曲全体については、教出の方が細かく丁寧に書いてありますが、細かすぎていて、限られた授業時間数の中で、そこまで指導する時間がないと思われまます。また、授業で写真を用いて楽器の説明をすることがありますが、教芸の方が、使いやすい写真が記載されていると思います。歌唱教材については、どちらの教科書もよい曲を数多く載せてありますが、歌う側である生徒の心情部分に迫るとい点では、教芸の方が優れていると思います。

日本の伝統芸能についても、授業で扱う時間数は限られていますので、絶対に扱うであろうものを中心に比較すると、「日本古来」という視点できめ細やかに記載されている教芸の方が優れていると思います。

坪井委員長 ありがとうございます。いまの報告につきまして、委員の皆さま

ん質問はありますか。

石川教育長 先ほど春を題材に説明がなされたので、質問をするのですが、まずは、教出の32ページですが、子ども達に教える時にどうやって教えるかということをお聞きしたいのですが、ソネットのことを教えるかどうか、それもあるのですが、教芸には、「ソネットとは」が書いてあるので一目瞭然で、そうだととなり、題材も挙げてあるのですが、教出の場合、あまり詳しく書いていないと思います。

調査員代表 はい。実は、申し上げた中にはなかったのですが、会議の中で、教出の方は、ソネットよりもリトルネットの方を取り上げてあって、実際リトルネットという言葉は中学校の授業では扱いません。何で必要のないものを載せて、必要なものを載せていないのかというのが教出の全てに繋がるもので、掘り下げすぎたところを載せすぎています。大事なポイントは教芸の方がきちんと押さえられています。

庄山委員 先ほど説明にありましたチェンバロを取り上げたことなのですが、教出にはそれが無いということなのですが、それ以外に子ども達に教えて、知っておかないといけない楽器で芸術社にはあって教育社にはない、又は、その逆とかはないですか。

調査員代表 楽器については、チェンバロだけでした。ただ、写真の載せ方については、教育社は写真が小さすぎて、バイオリンとビオラの違いが分からないところもありました。

坪井委員長 ちょっと言い忘れましたけど、今、一般と器楽を一緒に議論していますけど、後で別々にします。

石川教育長 春ばかりお聞きして申し訳ないのですが、教出の34ページの部分と先ほどおっしゃられたリトルネットというのと、こちらの教芸の場合は、33ページ青のライン、紫のラインが付けてあって情景が浮かんだかなという心情をテーマにしています。教出は、そうじゃなくて、形式の部分を重視しています。現場では、音楽については、形式じゃなくて、心情を教えることに重点があるということによろしいですか。

調査員代表 はい。

坪井委員長 非常に分かりやすい説明をしていただきまして、ありがとうございました。

(調査員代表、指導主事退室)

坪井委員長 それでは、事務局から調査研究員会の状況をお願いします。

教育研究支援課長 音楽は、一般と器楽合奏がありますが、総じて調査員代表からの説明内容に納得されておりました。一般については、教芸の方が、楽典の記載内容が分かりやすく、学習しやすくなっております。また、指揮の仕方を指導する際も使いやすくなっております。器楽合奏では、一番大きな違いは、教芸は、打楽器についてしっかり記載されており、これは大きなポイントであるという認識が持たれました。教出については多様な楽器について説明がなされているということが確認されました。

坪井委員長 今の報告について、何かご質問はありますか。それでは、調査研究委員会の報告について、週1回ということで、中々、詰めて行うことが難しい。そういう意味では、子どもたちが個人的に見て、ギターの練習をすとか、歌唱の練習をすとか、教芸は、その要素を含んでいて、バランスのとれたこなれた教科書であると私自身も感じました。他にどうでしょうか。

石川教育長 じゃ、意見だけ。高校教育の中でも音楽の授業が縮小されていますので、中学校である程度のことを身に付けてもらわないといけないと思うのですが、そういう意味では、教出については、今の説明にあるように、かなりふんだんにその内容が網羅をされているので、それは大事な要素ではあるんですが、音楽芸術が持っている根っこにある心情、音楽自体をどのように捉えるかということの方が、実は、将来の音楽をどう捉えるか、そこも捨てがたい。その部分では、教芸のほうが導入部分でポイントして大事にしてあるという点を捉えて教芸がいいかなと。もう1つ、和楽器、例えば、琴や尺八とかの捉え方の随分ポイントが違うわけですが、何を大事にするかは教科書のサイズであるとか写真であるとかで分かるんですが、琴にしても、尺八にしても、従来日本が持っている縦書きの文字による楽譜の話も紹介しつつ、どちらを大事にするか、個人的には教芸が適正ではないかと思えます。

坪井委員長 一般と器楽と今指摘があったですけども、別々に採択をしなければ

ばなりませんので、まずは、音楽の一般の方ですけども、教芸の平成28年度中学校用使用教科用図書として採択することに決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは、津市教育委員会としては、教芸を音楽の一般の教科書として平成28年度中学校用使用教科用図書として採択することに決したいと思います。次に、教芸を音楽の器楽合奏の教科書として平成28年度中学校用使用教科用図書として採択することに決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは、津市教育委員会としては、教芸を音楽の器楽合奏の教科書として平成28年度中学校用使用教科用図書として採択することに決定したいと思います。これで午前中の予定は終了しました。

坪井委員長 それでは、保健体育の採択を行いたいと思います。調査員の代表と担当指導主事の入室をお願いします。

(調査員代表、指導主事入室)

坪井委員長 それでは、保健体育の調査結果について報告をお願いします。

(保健体育の調査員会代表から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果報告)

調査員代表 調査員会として、東書の教科書を推薦したいと思います。その理由としましては、小学校や高等学校で学習する内容が上手く関連付けられているということと教科書に直接書き込む部分がたくさんあって、話し合った内容を書き込め工夫がなされているからです。また、学年ごとにまとまって保健編と体育編が配列されておりますので、子どもたちにとってその学年での学習内容が分かりやすく、見通しをもちやすいからです。「今日の学習」、「やってみよう」、「本文」、「考えてみよう」、「生かそう」という学習の流れで、「めあて」と「振り返り」が位置づけやすい構成になっています。さらに、「生かそう」では、学習したことを生活に活用できるように、発展課題を位置づけて生きる力につながるような工夫がなされています。章末に確認問題が掲載されている点もこ

の教科書のよいところとして評価しました。子どもたち自身が学習内容を再度振り返って、定着具合を把握することができますし、副教材を購入する必要がなく、保護者の負担も減るのではないかと思ったからです。色彩等も特別支援の観点で配慮されているなど、ユニバーサルデザインについても十分考えられている点も評価できます。また、各ページの下に、保健体育クイズや、パラパラ漫画などが配置されていますが、子どもたちがこの教科書にふれる機会を多くするという工夫であると考えました。以上の点を踏まえ、総合的に検討した結果、東書を推薦したいと思います。

坪井委員長 ありがとうございます。いまの報告につきまして、委員の皆さん質問はありますか。

坪井委員長 庄山委員

庄山委員 東書の、保健体育、特に体育教育というのは、体育祭・運動会であるとか、あるいは部活動であるとか、その他の教科と大きく関連しているようですが、その中で、総合的な学習につながるというような説明がありましたが、それはどういうことなのか一つ例を挙げて教えていただきたいと思います。それから、もう一つは大日本で、少し気になったのですけれども、38ページの、写真ですが、元気がない写真に見えます。東書の中に、そういう写真はないのかどうか少し気になりました。

調査員代表 まず1点目のことですが、スポーツへの多様な関わり方ということで、例えば教科書の36ページ、37ページを見ていただきますと、スポーツは選手として参加するだけではなく、いろんな参加の仕方があるというようなことが、ここで取り扱われています。体育祭といっても、運動が得意な子もおりますし、とても苦手な子もいるんですが、自分なりの参加の仕方というのがこういう体育理論の中に出てきたりするので、こういったところも上手く活用して、子ども達に自分の出来ることを一生懸命頑張ったらよいんだよというふうにもっていけるのではないかと思います。2点目ですが、東書の方は、トップアスリートが、表に出ておりまして、キーワードが「挑戦」とか「活力」「希望」「きずな」「伝統」「夢」というふうに力強いキャッチフレーズが載せられていて、それに見合った写真になっており、特に問題は無いように思います。

坪井委員長 他はどうですか。東書では、先生おっしゃられたように、例えば保健だと4章に分かれている。そして、4章を上手く編成し直して、学年毎に

分けてある。他のところを見ると、同じ章のようだけれども分けていないと。中学校の場合は、何年はこの章と決まっているのですか。説明をお願いします。

調査員代表 一応、保健編の方は、学習すべき妥当な配置は決まっているのですが、体育編については細かく、この分野は何年生でやりなさいというような細かい指定はないです。それも横断的に見る良さもありますが、何年生でやるのかよく分からないままに、次へ次へと持ち越して、教科書を全部やらずに残してしまうという危険性もあります。こう学年毎にきっちり分けられているのは、この今回のリニューアルした東書の教科書が初めてなのです。これをどういうふうに取り扱われるかと十分に話し合ったのですが、各学年にきっちり内容を押しやるということが分かった方が、子どもも見通しが持ちやすいし、教える側もこの学年でここまでちゃんと教えなければならないということが明確になっていた方が、有効活用できるのではないかという意見交換がなされました。

坪井委員長 中学生の保健体育という中身から言えば、1年生から3年生までそのような順番で学習する必要のある教科なのかどうかは分かりません。例えば、自転車の乗り方を教えられたら、1年生からずっとやりますが、自転車の扱いを、東書は2年生でやる。1年生からしっかり自転車のことは覚えるというのはよいと思うし、喫煙の問題も3年生まで待つ必要はない。そういうことで、ちょっと融通性が効かなくなるという議論はなかったですか。

調査員代表 話合いの中では、学年で区切ってしまうことのマイナス面の方も話し合われたのですが、今、学校には総合的な学習の時間がありますので、例えば、本校ですと1年生に入ったらすぐに、免許所センターの所に交通安全センターというのがあって近いので、1年生から乗り方や、交通の規則等について学習会を組めます。そのように上手くいろんな行事と組み合わせてやれば、例えば「1年生の時に教室に行ったよね。これは、例えば法律があるのだよ」とか、もう一度振り返りが出来るのではないかという話もありました。学校で工夫して、教科書でなければ教えられないということではないので、行事と上手く組み合わせてやっていく、また、学年がずれていてもこの教科書でもう一度確認をして定着させるという意味もあると話合い、各校でその辺りは工夫しながらやっていけばいいなということになりました。

坪井委員長 いわゆる他教科というか、総合的な学習の時間とも関連させながら教えていくというそういう理解の仕方ですね。

調査員代表 はい。

坪井委員長 はい。ありがとうございます。他にいかがですか。

石川教育長 現場の先生方に確認をしたいのですが、4つある中で、3つが後ろについているのが索引なのですね。それで、この東書だけは、索引がなくキーワードになっているので、個人的にはキーワードになっているということは、単元をもう一度振り返る時の一つの資料として使えるなど。索引は知りたいことを探すことは出来るけれども、という意味から考えると、教科書としてはこの東書はキーワードの解説はすごくよいかと思うのですが、そういうのはあまり関係ないのですか。

調査員代表 やはりこのキーワードの解説というのは、授業中、保健体育に係る分からない用語が出てきた時に、意味を確認するということに活用できるのですが、教科書の単元にもキーワードが記載されていて、内容がリンクしていて分かり易いと思います。それと、章ごとに記載されている上で、「あいうえお」順になっていますので、探しやすいのではないかと思います。

石川教育長 ちょっと気になるのが、循環型社会の記述の件なのですが、循環型社会というのは、保健体育がということではなくて、社会全体として非常に大きな日本の課題になります。東書のとらえ方が、55ページのところで循環型社会がきちんと出てきて、なおかつ58、59ページに改めてちゃんと出てきてはいるのです。ただし、他の各社は、例えば「人類と地球の未来のために」とか「環境問題の取組をどうするか」などのタイトルで子どもたちにアピールしていますが、東書はその部分はかなり薄いように見えるのですが、それは課題として、出ませんでしたか。

調査員代表 総合的に判断したのですが、教科書会社によって各章とか各分野の取扱いについて、特徴がありまして、例えばある分野はAという教科書が良くて、違う分野については、Bという教科書が良くてという具合になります。この分野だったらこの教科書を使いたい、この分野だったらこの教科書を使いたいという思いはありますが、子どもに持たせるのは1冊ですので、総合的に判断して、これが一番使いやすく、見やすいと考えました。大きさもA版になって広がった分だけ、字がばらけ、イラストがたくさん貼れて見やすくなりました。机もA4版に対応できるように変わっていますので、A4版の本が見や

すいだろうということも選定理由として考えました。

坪井委員長 他によろしいですか。ありがとうございました。

(調査員代表、指導主事退室)

坪井委員長 事務局の方から調査研究委員会の状況を報告をお願いします。

教育研究支援課長 保健体育につきましては、小中一貫教育を踏まえた学びの連続性とめあてと振り返りを含めて授業の見通しを子どもたちが立てやすいという点から東書と大日本に絞られました。その上で、東書は、保健と体育で学習すべきことが学年ごとに整理されていて、子どもたちにとって見通しが立てやすいということと、まとめの問題が掲載されていて、学習の定着につながるということから、東書の方がよりふさわしいという結論に至りました。

坪井委員長 ありがとうございます。今の報告を含めて委員の皆様ご質問等ございましたら、お願いします。

庄山委員 先程、委員長が言われました、この保健と体育が学年毎になっているのがよいのか、先に体育が来て、後ろに保健が来る、従来の方がよいのか、非常に難しいところだなと私は思っていて、先程の説明として、東書は今回初めてとおっしゃいましたね。

教育研究支援課長 はい。

庄山委員 使い勝手がよいのか、悪いのか非常に難しいと思います。

坪井委員長 いかがですか。

滝澤委員 東書は、学年毎の内容というのが、ある程度あって、他のところはないというのは一つの特徴ということですが、他のところも基本的には順番でやっていくという教え方をやっているわけですね。飛び飛びに教えるということはされているんですか。だいたいこの出てくる順番で1年、2年、3年というふうに学習されているんじゃないかなという気がするんですけれども、どうやって教えているのか、もし分かれば教えてください。分かっている方が分かりやすいという意見あったんですが、じゃあ、従来はどうやって、飛

び飛びでも教えることがあったのかとかですね、1年、2年、3年と東書の方は分かれています、別にこれは1冊の本なのでどうしても関連があれば、例えば1年生でも2年生のことを教えるということも可能なのかとか、現実にはどのように使われているのかというところが分からなかったんですが。先生はこちらの方が使いやすいとおっしゃるので。この東書が初めてなんですよね、この1年、2年、3年度と学年を分かれて項目をやっているということですよ。今は、この保健体育は分かれていないので、基本的に順番通りにしてみえるのではないかと思います。

坪井委員長 中身の順番は一緒ですね。

滝澤委員 分かれている方が使いやすいのかどうかは分かりません。分かれていることで限定的になるという意見もありますが、別に2年生の学習内容を1年生に取り入れて、ちょっと何ページを見てみようかということで、教えることが出来れば柔軟性をもって指導できると思います。

坪井委員長 これに関わる質問とかありますか。他にお聞きすることはありますか。

松本委員 雨になったときに保健体育の授業をするというイメージがあるのですが、天候に左右されて年によって学習時間に差が出ることはありませんか。

坪井委員長 この2点について、もう一度お願いできますか。

(調査員代表、指導主事入室)

滝澤委員 この東書の方は、1年2年3年と分かれています、1学年だったらこういうことを学んでということがある程度明確になっていますが、それ以外の教科書会社はこの学年で何を学ぶというのはないようです。ただし、他の教科書でも教科書の順番に沿って指導すると思います。また、学年ごとに分かれていますとしても、例えば1年で習うことの中でどうしても関連がある場合、3年の内容をちょっと教えたり、あるいは2年の内容を教えたり、逆の振り返り、3年になった時に1年のことに戻ったりと、指導において、こういう複合的な教え方というのはあり得ますか。

調査員代表 それはあり得ます。関連ページもきちんと書いてありますので、

そこに関連した内容で、もう少し詳しく踏み込みたいというところは、他学年の発展的な学習という捉えで飛ぶことは十分にあると思います。

滝澤委員 ではそういう使い方をされて、1年はこれという限定的な使い方ではないのですね。

調査員代表 それはいいですね。およその目安がはっきりとしていて、1年生としてこれくらいの内容をきっちり押さえなくてはいけないということです。

滝澤委員 目安ですか。

調査員代表 あくまでも目安ということで、必ずしもそれ以上教えるとはいけないということではないので、関連ページ等も書いてもらってあるので、関連して必要に応じて使っていけばいいというふうに思います。

滝澤委員 そうすると、今までの教え方は、例えば1学年はこの本の順番に従って指導するのが基本になりますか。

調査員代表 先程も申し上げましたが、その時その時で、必要に応じて前倒ししてと指導することはあると思います。例えば、体の発育・発達というのは、1年生で習うのですが、それに付随して、感染症などは、3年生で習うことになっており、そういう問題がクローズアップされているような時があれば、関連して指導するということも十分あります。

滝澤委員 ただこの目次は、1番最初に教えた方がよい部分が先にきているというようなことですか。

調査員代表 そうです。一応教科書の作り方のスタイルとしては、基本的なものから段々という、早急に教えなければならないというものが、子どもの発達に合わせて、組んであると思います。

滝澤委員 そうすると、大体は、分けていなくても順番にいけば、目安というのはあると考えていいわけですか。

調査員代表 体育編は、庄山委員からも質問があったように、行事に合わせて取り扱ったりすることも出来るので、別に学年を決めなくてもよいと言えばよ

いのですが、こういうふうにしていくと、おおよその目安がはっきりしている  
ので、漏れが無くなるという利点があると思います。

滝澤委員 ある程度融通をつけてということですね。

調査員代表 そうです。やはり関連したものについては、その学年の実態や、  
その学校の実態に合わせて、踏み込んでいかなければならないところは、当然  
出てくるというふうには思います。

松本委員 分量的な部分ですが、目次で見ますと、1年生の部分が40ページ  
くらいで、2年生が60ページくらいですか。3年生も60ページくらい。3  
年生になると授業の終わりが3月初めくらいになると思うのですが、この辺の  
分量はこれが実際、授業をされる中で、妥当な分量だと思われるんですが、も  
しかしたら、今の授業が、例えば週に1回体育の時間があつてというふうに、  
授業をやっていけるものなら、例えば雨が降った日は、保健体育にするとか、  
年によって差が出るとうことはないんでしょうか。

調査員代表 その辺は、学校によって取扱いの方法は違うと思います。ある学  
校では、例えば3年生ですと後期になると運動部の子どもたちは引退してしまいま  
すので、後期は体育を3時間とる、その代わり前期は3時間の内の2時間を体  
育の実技の教科に当てて、1時間を保健や体育理論をするようにきちんと割り  
振っているところもあります。カリキュラムは作っていますので、何年生で何  
時間というのはきちんと決まっていますので、それをカウントしながら、1年  
の中でそれだけやるというふうに弾力的に組んでいるところもあるので、各学  
期に必ず位置付けているとか、そういうふうにはなっていると思います。ただ、  
雨が降ったりすると外の種目ですとできないので、そこは振り替えて、次に晴  
れた時に、振り替えた部分を体育にするということは、御指摘のとおりありま  
す。それは、外の種目に限ってですが、中の種目については、雨が降っても関  
係ないので、計画的にきちんと学期ごと、または前期後期で子どもの実態に合  
わせて、運動量が減っている時には運動の時間を確保し、運動量が十分にある  
時には、保健編や体育理論をきちんと位置付けていこうと取り組んでいるとこ  
ろもあると思います。学校によって運営の仕方は弾力的にやっているというの  
が実態だと思います。

石川教育長 参考までにお聞きしたいのですが、先程、教科書は各社によって  
特徴があるので、薄いところ厚いところがあるというお話でしたが、例えば、

社会性の発達の部分は公民に関係するでしょうし、先程から循環型社会も公民に大きく影響があると思うんですが、教科書は各社でばらばらです。その時に、そういうふうなところのフォローは、どこかで話し合いがされて、ちょっとこういうところはお願いねというのは、学校の中で、津市全体かもしれませんが、そういうのはあるのでしょうか。

調査員代表 それは、実際的には、教材研究をする中で各先生の判断に、教科書が決まったら任されていると思います。話し合う場所としては、各学校の教科部会や教育研究会の中で保健体育部会などがあるので、そういう場で話題に上るということはあると思います。各教員が、教材研究をしますので、そこで少し薄いなどと思えば、別の資料を用意するなどの工夫は必要であると思います。

石川教育長 社会性の発達のところは、公民の中のコミュニケーションの部分と保健体育の心理的な自己形成の方から見た部分だと思うのですが、子ども達はそれぞれの教科を学んで、統括して大人になっていくので、その連携がどうかと思います。

調査員代表 家庭科、社会科、理科でも出てくると思うのです。保健体育だけで扱うわけではありませんので、横断的に関連しているところをやっていかなくてはいけないと思います。

石川教育長 例えば、家庭科の中に、放射能の話が出てきません。例えば、学研の保健体育では、放射能、放射線が含まれる食物の記述が出てくるが、東書にはない。子ども達が循環型社会を考える時に、原発を考え、食品の中にどうなっているのかという基礎知識として少しあると、助かると思うのですが、そういう意味では連携は難しいところがありますね。

調査員代表 学研の方は、放射能を扱っているのですが、私たちもきちんと扱われているということは確認しました。教科書には、分野、分野によって記述は厚いところと薄いところがあるので、こういうところをもっと厚くしてほしいというようなことも協議しました。

坪井委員長 全て答えていただくのは、難しいところもあります。十分答えていただいたと思いますので。ありがとうございました。

(調査員代表、指導主事退室)

坪井委員長 時間も随分経ってききましたので、決めていきたいと思います。(滝澤委員)と一緒に、東書は、分ける意味合いがアピールするほどではないと、別に分けることを否定しませんが、他の方、いかがでしょうか。

滝澤委員 先程目安と言われましたので、多分現場では柔軟に教えていただくということになると思います。

石川教育長 個人的には循環的社会が気になったものの、東書にはきちんと二種類あって、リンクというのは、この教科書の中でどこに関連しているかということで、他教科とどこに関連しているかというのが、きちんと書いてありますのでそれでいくということにして、東書の場合は「今日の学習」と最後に「考えてみよう」というのが明確にあります。今日の学習テーマとして、「やってみよう」と「考えてみよう」というのがあるというのは、学習の定着という意味では非常にいいかなと思います。以上の点から、やはり東書がいいかなと思います。

庄山委員 先程も申し上げましたけれども、保健体育科教育は学校行事と非常に大きく関係しておりまして、様々な体育スポーツ行事、それから、修学旅行的な行事など、この内容を話し合う事前指導がかなり保健体育の内容と重なっています。ですから、この教科書をわざわざ使わなくても、教科書の内容をかなり多くのところで勉強もしておりまして、学年も、1年生の時、2年生の時とここでは分けてありますけれども、3年生と言われた内容を1年生でやったりしておりますので、それで、教科書ではそれをもう1度再度確かめて学習するというような形になると思います。ですから、学年が分けてあってもそれほど大きな問題はないと思います。子ども達には非常に扱いやすい内容になっている東書でいいと思います。

滝澤委員 東書がよいと思うのは、アスリートになるということだけではなくて、競技者を支えることも大事なんだよ、意味のあることなんだよということが押さえてあり、先程言われたようにキャリア教育の主旨に合っているようなアプローチがなされています。その点で他の教科書より深い感じがしますし、使いやすいという意味でも、東書がよいという意見を持っています。

坪井委員長 では、東書の保健体育の教科書を平成28年度津市中学校用教科用図書として採択することを決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは、津市教育委員会として、東書の保健体育の教科書を平成28年度中学校用教科用図書として採択することを決定します。

坪井委員長 それでは、美術の採択を行いたいと思います。調査員代表の代表と担当指導主事の入室をお願いします。

(調査員代表、指導主事入室)

坪井委員長 それでは、美術の調査結果について報告をお願いします。

(美術調査員代表から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果報告)

調査員代表 調査員会としては日文を推薦いたします。その理由は、4つあります。1点目は、自己実現への道程としての美術が強く意識された教科書作りがなされているからです。2点目は、学びのねらいが明確に明示されていて、生徒にとって、学習のポイントが分かりやすくなっているからです。3点目は、教科書のサイズも大きく、図や写真も美しいなど、鑑賞資料として優れているからです。浮世絵のページには和紙を使用するなどの工夫もあります。4点目は、鑑賞のポイントを示しながらも、生徒一人一人の感じ方を尊重する構成になっているからです。

坪井委員長 ただ今の報告について、質問等をお願いします。

庄山委員 美術の時間数が非常に少なくなって、美術科を担当される先生は大変苦勞をされているだろうなと思っております。1年生の教科書はあるわけですが、全ての内容を学習するというのは無理ですね。

調査員代表 はい。無理です。

庄山委員 先生方が、目の前の子どもをみて、この子どもたちにはどれをということを決めるわけですね。音楽・体育もそうですが、美術、芸術的なものは、生涯学習という意味では非常に意味のあることです。中学校や小学校の時には

あまり絵は好きじゃなくても、大人になってから絵を描いたりするとか、体育は嫌いだったけど、今一生懸命スポーツに取り組む方がいらっしゃるということから、生涯学習の基礎を身に付けるというのは、特に中学校教育だと思うのです。先程おっしゃった遠近感を出すとか、デザインの字を描けるというのは、子どもたちの大切な持ちものになります。生涯学習、生涯教育という点から考えますと、この日文というのは他の教科に比べて、大きな意味があるというところはございますか。

調査員代表 生涯学習的な意味というのは美術の中でも大きなことで、どの教科書もそのことは意識されています。学習指導要領の言葉を使うと、美術を愛好する心というもので、どの教科書も美術1の最初の始まりのところには、その美術との出会いというところが大きく意識されています。「自己実現の道」と言うんですけど、絵を描くということは自分と出会うことだと考えているんです。例えば頭の中でこんなものを作りたいというのを実際に作ってみると、そこにずれが出てくる。そのずれを修正していく中で自分が好きなもの、美しいと思うものというのは何だろうと考えながら作っていくことになります。その中で、隣の子が違うものを作っていれば、この子は、こういうことがよいのだと思っているということで、今度は他者との出会いというのがあります。それが習慣となって私はこれが好きというのは、人とは違うし、これが好きというのはみんなと一緒だ、というところに気付き、自分というのを知っていきます。もう一つが、出来る喜びです。先生が言われたように、遠近法や、デザインの字が描けることは、さほど難しくないことなので、それを身に付けることで、自分は出来るという喜びが生まれる。これはすごく大きいと思っています。また、先生が言われた、学生のとくに美術が嫌いだったが、大人になったら好きになっていく子もたくさんいるというのは、一番大きなその原因は、学校教育の評価だと思うのです。人間というのは基本的に表現することに喜びを感じるものだと思うのですが、それを評価されることで、本来的な喜びを阻害している部分があるのではないかと、美術教員はいつも考えています。それを分かりやすくするという意味でも、文教出版の図書の方は、題材に必ず学びの期待というのが書かれています。例えば美術2-3下ですけど、32ページに、魅力が伝わるパッケージという学びのねらいが必ず示されています。これは、いわゆる通知表の評価の4観点に対応しているものですが、生活を彩るパッケージデザインの働きについて、関心を持とうという学びのねらいなのですが、これは言いかえると働きに関心を持てましたか、という評価の観点にもなるということなのです。そういう意味でも、自分がどう評価されたのかが分かりやすくなっていて、必要以上に評価に落ち込んだりすることもないのかなと思います。

ます。あと、特に3年生最後の時期に扱う、今見ていただいている日文、美術2-3下ですが、後半はほとんど社会とのつながりの中で生きる美術、アートを体験する場に出かけようとかデザインと環境や、暮らしを心地よくするインテリアというように、生活の中で生きる、いわゆる美術館の中に納められている額縁のピュアアートではなく、生活の中で生きる美術ということが意識された内容になっていると思います。

石川教育長 ポスターを書くというのは、結構多いと思うのですが、ポスター以外にも文字を書いたりしますが、美術の教科書として、文字の出る場所が、文教出版が一番少ないかなと思うのです。確か36ページくらいにしか出てこないですし、光村は54ページにかなりしっかりと、描き方も記載されています。ポスターの中で、文字の意味は結構大きいと思うのですが、教科書にはあまり書いていないような気がします。教科書として、客観的にデータ量の違いがあるので、それについて支障があるのかないのか、コメントをいただければと思います。

調査員代表 自分は、レタリングはAという字さえ載っていれば、後は授業の中で出来ることだと思いますので、いいかと思います。

石川教育長 ありがとうございます。

坪井委員長 他はどうでしょうか。

松本委員 日文は3分冊になっているのですが、メリットとデメリットはありますか。

調査員代表 ケースに入って3冊全部一体になっている。そう考えると、光村は2冊ですが、結局一つのケースに入るので、分冊であること自体はあまり関係は無いかと思います。

松本委員 1年生の時に1だけを持って行くというわけではないですね。

調査員代表 もう、このままです。ですから、最初に言わせていただいた各校の美術教師が裁量で、やっていく部分があるというのは、どうしてもここが必要という場合は、1年の時であっても2年生の内容を持ってくる事が出来るしということです。

坪井委員長 現実論のお話をされたと思うのですが、授業日数が非常に少ないので、本来ならば、それに合わせて教科書の内容は減っていくと思うのですがどうですか。前回と比べて日文は、量的に減っているのですか。

調査員代表 減っているとは思わないです。ただその提示の仕方が、例えば絵画、彫刻、何々という技法で追っているのではなく、例えば自分を見つめようという題材のくくりの中に、絵画表現と、彫刻表現を一緒に提示して、後はもう学校が絵画をするのか、彫刻をするのかというのは選べるような形の出し方が増えていると思います。

坪井委員長 美術の教科書は、例えば画集という意味合いで、内容が圧縮されていて、他の5教科とはちょっと違う教科書なのですね。

調査員代表 はい、そうです。

坪井委員長 だから、必ずしも全部やらなくても、教員がこのあと、教科書を参考にこういうことをしておきなさいよとかいうような指導の仕方をしていくこともあり、そういう点を踏まえた上で、日文のバランスがよいということなのですね。

調査員代表 はい。

坪井委員長 他にどうでしょうか。

滝澤委員 教え方なのですが、短時間でこれを全部教えるというのは非常に難しいということですが、実際に絵を描いたり、デザインしたりという作業があるので、実際の場面では、教科書を使って指導するのと作業では、比重は大体どれくらいでしょうか。

調査員代表 その教科書を使う場面と作業の場面が明確に分けることが出来ないのでは比重というのはなかなか言いづらいです。もちろん、実際に手を動かす教科なので、そこが中心でそれを助けるために教科書を使うというようなイメージです。

滝澤委員 そうすると、例えば鑑賞の方法とか、画集としてこれを見るとか、

そういうことではなく、やはり手を動かしたりすることの助けということですね。

調査員代表 ただ、指導要領の中に、鑑賞教育に関わっての部分の記載というのは、ずっと非常に多くなってきているところでもありますので、鑑賞の授業は鑑賞の授業で必ず実施します。

坪井委員長 他によろしいですか。では、どうもありがとうございました。

(調査員代表、指導主事退室)

坪井委員長 それでは、調査研究委員会の状況報告についてよろしくお願ひします。

教育研究支援課長 美術につきましては、委員のみなさんから、子どもが教科書を最初に見た印象が大切であるという意見がありました。その点で、日文は、図版が大きかったり、和紙が使ってあったりして、興味関心がわくような工夫がなされていると確認されました。また、学びのねらいが日文の教科書には分かりやすく明記されているということで、日文がふさわしいという結論に至りました。

坪井委員長 ということで、事務局からの説明も踏まえて、質問いかがでしょうか。

石川教育長 美術の全体の流れが、西洋から日本に向かっているというのがよく理解出来るのですが、現実一般社会の中では、美術展なんかに行くと、印象派とかルネサンスとかいうふうな表現がたくさん出てくるわけで、この中では光村だけが、印象派とかルネサンスとかの説明が出てきています。光村は先程言いましたが、文字とデザインの関係がデータとして入っていたりするので、非常に捨てがたいのですけれども、全体から見ると、日文の方が扱われている題材もよいと思いますので、TOTAL で考えると、日文かなという思いはします。

坪井委員長 他、どうですか。

滝澤委員 美術ですので、美的感性を養うというところもあると思うのですが、表紙も含めて、中身が一番美しいと感じます。それから、2・3下の最

後のページでは、卒業、巣立ちをイメージした、桜吹雪の舞う情景とそれに合わせてメッセージがあり、その後の美術の学習につなげています。美的な感性を養うこと、先生方が指導しやすいことも含めて日文かなと思います。

坪井委員長 私も今回見ていて、直観的によいなと感ずるのが、日文です。日文の教科書は、細部まで研究がなされているのだと感じました。特にならなければ、日文がよろしいかなということで、日文の美術の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として、採択することを決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは、津市教育委員会として、日文の美術の教科書を平成28年度使用の中学校用教科用図書として採択することを決定いたします。以上です。

坪井委員長 少し休憩させていただいて、社会科を進めていきたいと思います。では、休憩に入ります。

教育研究支援課長 それでは、2時40分、再開をお願いします。

坪井委員長 それでは社会科、分野3分野、地理、歴史、公民に分かれておりますけれども、一括してまずは調査員代表の方から説明を、これは、地図も併せてさせてもらいましょうか。それから、質問をさせていただくということでいきたいと思います。ある程度ポイントを押さえながら説明をしていただければありがたいです。調査員代表の代表と担当指導主事の入室をお願いします。

(調査員代表、指導主事入室)

坪井委員長 それでは、地理・歴史・公民の調査結果について報告をお願いします。

(社会の調査員会代表から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、地理的分野についての調査結果報告)

調査員代表 帝国の「中学生の地理」という教科書が最も適切な教科書である

と判断いたしました。その理由の1点目は、地理の学習の導入である世界各地の人々の生活と環境において、生徒が、人々の暮らしぶりや気候について、具体的にとらえやすいからです。2点目は、世界や日本の諸地域の学習において、まず概要を把握させたうえで、次に学習のテーマが設定され、その地域の自然環境や文化、農業、工業など産業の特色や人々の生活を学習するという流れで構成されており、生徒にとって理解しやすいものであると考えたからです。3点目は、日本の領域と領土問題について、きちんと地図上に示されるとともに歴史的経緯と現状が分かりやすく記述されているからです。北方領土については、国境付近の地図を使用し日本の領土であることが示されています。さらに、領土問題の解決に向けた取組も示されています。4点目は、自然災害や災害防止について、「羅針盤マーク」というコラムを始めとして、各所に、水害・地震・噴火といった防災の工夫が、2つの大震災の事例も挙げながら示されているからです。地理については以上です。

（社会の調査員会代表から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、歴史的分野についての調査結果報告）

調査員代表 日文の中学社会歴史的分野という教科書が最も適切な教科書であると判断しました。その理由をご説明します。1点目は、各時代の特色や時代の転換点を資料から考える活動を通して歴史の大きな流れを捉えるようになっていくとともに、歴史的事象を多角的に捉えることができるようになっていくからです。2点目は、全単元を通じて、我が国の歴史を世界の歴史の中で捉えて広い視野で歴史を理解できるようになっているからです。例えば、単元の初めに「地図で見る世界の動き」というコーナーを設けて、アジアを中心とした世界の動きを日本との関わりの中で示していて、日本の歴史を学習する背景がより分かりやすくなっています。3点目は、「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」といったコーナーで伝統と文化を中心に、資源、環境、命の尊さなど幅広いテーマを取り上げており、自主的な学びにつながる課題設定が容易にできるからです。4点目は、人権問題にも多くのページを当てて記述されているからです。5点目は、領土問題について、歴史的経緯や現在の課題について丁寧に説明されているからです。6点目は、防災についても、阪神淡路大震災や東日本大震災が詳しく取り上げられるとともに、コラムを活用し、生徒に分かりやすく説明しているからです。歴史については以上です。

（社会の調査員会代表から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、公民的分野についての調査結果報告）

調査員代表 公民ですが、7つの教科書を検討させていただきました結果、東書の「新しい社会 公民」が最も適切な教科書であると判断しました。その理由を説明します。1点目は、公民的分野をどんな観点で学び、何が求められているのかということが、他の教科書会社より明確に示されていて、学習に一貫性が見られるからです。2点目は、各章の導入部分に工夫がなされており、生徒の興味・関心が引き出され、学習の視点が把握しやすくなっているからです。3点目は、生徒の興味・関心を喚起するような身近な内容を取り扱っているからです。4点目は、各小単元が見開き2ページ分で、学習しやすいレイアウトになっているとともに、大きくて分かりやすい写真や資料が豊富に掲載されているからです。5点目は、領土問題について、本文の記述の他、コラムで日本の領土をめぐる問題の現状が取り上げられており、我が国の領土問題を正しく捉えた上で、解決に向けての方向を明らかにしているからです。また、防災についても工夫がなされ、分かりやすい記述がなされています。以上です。

坪井委員長 社会という括りで一旦、3つ説明してもらいましたので、ここで区切らせてもらいます。ここから、地理と歴史と公民という形での質問を出させていただきますと思います。社会科は非常に各社、数も多いということ、それからやっぱり、ちょっとその中身が、領土問題とか、防災とかエネルギー問題等々で関心も強い中身ですので、指導内容ですね、その辺りが、いかに適切なものであるか、表現も含めて注意を払いながら、検討していただけたらと思います。まず地理から。とりあえず推薦していただいたのが、帝国ですね。ちょっと皆さん考えている間に、帝国以外にこう競った他の発行社っていうのは、あったでしょうか。

調査員代表 そうですね、今が東書ですので、やはり東書でいくか、帝国にするかっていう辺りが話になりました。

坪井委員長 どうでしょうか。御意見、というか御質問ですね。

庄山委員 質問でよろしいですか。

坪井委員長 はい、庄山委員。

庄山委員 東書の場合は、概要の説明があつて、地図があつて、気候があつて、産業があつて、その後また細かく説明があるというような、そういう繰り返し

を各単元でなされているというようなことでしたね。一方、帝国については、それが地形、気候、農業、工業という流れで記述されている、というようなことなのですね。

調査員代表 はい。

庄山委員 帝国は内容に重なりがないということでしたか。

調査員代表 はい。

庄山委員 地理の学習は1年生ですよ。

調査員代表 1年生と2年生で学びます。2年間で地理と歴史を交互に学びながら進めていきます。

庄山委員 1、2年で2冊を持っているのです。

教育研究支援課長 そうです、そういうことですね。

庄山委員 エネルギー、原発というのは、今一番一般の方々が注目している内容で、教科書にどんなふうに出ているのかなと注目していると思うのですが、帝国あるいは東書の取り扱いの違いについて説明していただけませんか。

調査員代表 東書の方は、例えば241ページを御覧いただけますか。地理にアクセスというコラムが一番下にあるかと思います。ここでは、福島第一原子力発電所の事故、その後、影響を受けた農林水産業、それからその後、放射線物質、汚染水というようなこととか、そういうことが書かれています。他にも、221ページには、コラムで北陸の美浜原発のことがまとめられています。それに対して帝国の方は、156、157ページの辺りに、日本の資源 エネルギーと電力という項目がありまして、157ページの方の上から3行目ぐらいから、東日本大震災、東北地方の地震が本文で紹介されていることと、それから251ページに、福島第一原発の事故をきっかけに、原子力の利用が見直されるようになって、再生可能エネルギーが広がり始めた、というような内容が説明されています。

坪井委員長 よろしいでしょうか。

庄山委員 はい。

石川教育長 はい。

坪井委員長 石川教育長。

石川教育長 帝国の167ページ、日本の諸地域の学びに当たって、というところと対応するのが、東書の178ページの地方と視点の組み合わせですが、例えば中部は産業という視点で同じですが、近畿は、帝国が環境保全で東書が歴史的背景となっていて、視点が異なっています。帝国は順番に並んでいて、学習し易いというのはよく分かったのですが、このような、地方を捉えるときの視点の違いってというのはあまり議論にはならなかったですか。

調査員代表 テーマが違うという話は出ました。観点が違うので、入っていき方が違うことになります。

石川教育長 あんまり大きな要素ではないんですか。

調査員代表 確かに、近畿地方で、環境それから歴史的背景と言いますと、全然違うように見えますけど、例えば帝国に書いてある環境保全に注目して、という中の文書を読みますとやっぱり歴史っていう言葉が出てきます。

石川教育長 そういう意味ではなく、例えば九州の環境保全に関する記述の量が全然違うので、そういうのはあんまり気にならないものなのかどうなのかを、ちょっとお聞きしたかった。

調査員代表 そうですね、それほど気にする必要はないと思います。

坪井委員長 エネルギー問題とか領土問題とかいうのは、歴史でも公民でも全部重なっている部分があるのですよね。今日的な問題として、そういうエネルギー問題とか領土問題があり、その視点も含めてしっかり見ていきたいと思えます。それでは、もう一回戻りますけれど、歴史の方にいきたいと思えます

庄山委員 はい。

坪井委員長 はい、庄山委員。

庄山委員 歴史ですけれども、3点について確認させてください。まず、年表が、どの教科書も同じようにあるのかどうか。それからインターネットを使用して学習するというようなことが出ているところもあったのですが、パソコン等を使って学習するような内容があるのかどうか。それから近代史について、内容が薄いところと厚いところとあるような気がするのですが、それについて、追加説明をお願いしたいと思います。

調査員代表 年表は全部ついております。インターネットを活用しての、というのは、一つはあったかと思いますが、その点で、そういう紹介がされているかどうかということについては、詳しく調査しておりません。それから、近代史の学習の時間というふうなことです。まず基本的に、先程、地理、歴史を交互に学習していくというふうに申し上げましたが、最近は公民の時間が主要時間ということで増えておるところです。公民の時間がという言い方がおかしいですね。1年生と2年生が社会の時間が週3時間ですね、それから3年生になると4時間に増えます。すると公民ばかり4時間実施するのかというところではなくて、近代史が歴史で増えてきた分などを3年生で出来る様に、時間が増えているというふうには考えられます。そういう意味で、3年生になってからもできるのですが、今おっしゃられた、中身の薄い濃いという点につきましては、それほど違いはないと思っております。

庄山委員 分かりました。

坪井委員長 はい、滝澤委員。

滝澤委員 帝国、東書、日文は、それほど大きな違いもなく、甲乙つけ難いような気がするのですが、特にこの日文がよいと思われたのは、先程いろいろお話も聞いたのですが、端的に言うと、何がポイントになったのでしょうか。

調査員代表 やはり指導のしやすさというところですね。資料というふうな観点も問題になります。東書、それから帝国、それから日文を先程おっしゃっていただきましたが、東書にある資料の指導については、なかなか時間が掛かるということで難しいと思っているところですね。東書の教科書の191ページを御覧ください。191ページの一番上に、部落改善運動の始まりという資料があります。三重県B村は1889年4月、3つの被差別部落が合併して生まれました、ということで、いろいろその経緯が書いてあるのですが、地元というこ

とで、特に子どもたちはこれを見れば注目をする可能性があり、これにつきましては、いろいろと指導が必要な資料かなというふうに思いますし、学校によってもいろいろ扱いが変わるべきものかなと思いますので、これは難しいかなというふうに思いました。

滝澤委員 指導がちょっと難しいということでしょうか。

調査員代表 そうですね、時間を掛けなければいけない重要な資料だと思います。

滝澤委員 帝国と東書は、甲乙付け難いと思います。

調査員代表 帝国では、タイムトラベルというイラストなど、大変特徴がよく掴めて、よいようにも思えるのですが、これはやはり後で作成したものであって、意図的にいろんなものが書き込まれていて、実際の当時の写真ではないという辺りで、望ましくないという議論がありました。

滝澤委員 実際に本当にこうであったかどうかというのがはっきりしないということですか。

調査員代表 そうですね、意図があって書かれているものですので。やはり、いろんな写真等を授業で使っていくのですが、日文にしましては、106ページを御覧ください。長篠の戦いが2ページ見開きに載せられております。これだけ広い範囲を大きく載せている教科書会社はあまりないと思いますし、資料集というものでも、これだけ広い範囲を映しているものはない。この中には徳川家康もおり、織田信長も描かれており、豊臣秀吉もいるという。その辺りでいろいろ探っていけたりするなど、資料の写真で他のより良さを感じているところです。

坪井委員長 他どうでしょう。

松本委員 細かいことになるのですが、東書と日文を比べてみた時に、例えば鎌倉幕府がいつ開かれたかっていう記述で、東書の方は70ページで本文の5行目ぐらいでしょうか。「頼朝は本格的な武士の政権である鎌倉幕府を開きました」これが1185年に守護地頭を置くってところで鎌倉幕府を開きましたという記述になっていて、1185年に開いたっていう、かなり明確に書かれていて、日文の方はちょっとアバウトな書き方、1185年に守護地頭

を置く権利を得て、1192年に征夷大將軍になって、下から4行目に「こうして12世紀の末に鎌倉に建てられた武士の政權を鎌倉幕府という」。ちょっと指標があるところを、ぼかした言い方をされていて、教えやすさという点でいくと、何年っていうふうに出した方が子どもたちはもしかしたら覚えやすかったりするのかなという気もするのですが、そういう二つの違いは許容範囲であると判断をされたのか、いかがでしょうか。

調査員代表 いい国つくろう鎌倉幕府、というようなことで、1192年というふうなことが以前から言われていた訳ですが、ところがいろんな説が唱えられるようになって、教科書も、明確に何年というふうには記述しにくくなり、教科書によってはあいまいにしたり、注釈を付けたりということで、東書の方は、そのおっしゃっていただいたページの左下の源頼朝と伝えられる肖像画の下に注釈で書かれてあり、また日文の方も同じように、説があるということを、左下の注釈のところに書いてあります。こういうふうなあいまいな言い方にもなってきております。きちっと説明だけはしてあるとは思いますが。

松本委員 そういう新しい研究成果なんかも、この日文は反映されているっていうふうに考えたということですね。

調査員代表 はい。

松本委員 わかりました。

滝澤委員 すみません。

坪井委員長 はい、滝澤委員。

滝澤委員 日文っていうのは前から採用しているんですか。

調査員代表 はい、そうです。

滝澤委員 継続的にですか。

調査員代表 今も、使っている教科書会社です。

滝澤委員 やはり使いやすいっていうことですか。

調査員代表 教員にとっては同じ流れで、使いやすいと言えば使いやすいかも

しれません。

坪井委員長 最近どこも、かなり研究してみえるのかなあっていう感じで見ているのですけども、日文を見ていると、例えば268ページぐらいを見ると、学習課題が提示され、そして、文章もさることながら、どれだけ考えさせるだけの資料が、そのページに散りばめているのか、自分ならそういう視点で社会科を選んでいきたいなと思います。要は子どもたちに、歴史の内容を暗記させるんじゃなくって、こういう時代はこういうことが起こり、その背景としてどう考える、ということに取り組みせる1時間の授業にしたいと思います。写真とかグラフとかの資料もどういう視点から与えたらいいか、それでどこが優れているか、ということが大事なんじゃないですか。すると、確かに日文というのは、随分洗練されているかなという感じはしたのです。そういう話し合いというのは、調査委員会ではどうですか、子どもたちにとって学習しやすい資料提供になっているのかどうかという点では出なかったのですか。

調査員代表 ありました。その時代の様子をうまく捉えている写真が使われているとか、そういう他社との違いを挙げる場面がありました。例えば、満州事変の写真があったのですが、大体リットン調査団の爆破の写真がよく掲載されるのですが、日文の場合は、226ページにあるような、満州に進軍する日本軍がどんな所を歩いて行ったかが分かるという写真を載せてあります。単に爆発した後を調査している、調査団が来ているだけの写真っていうよりも、よいという話がありました。

坪井委員長 本当に今、我々が必要なのは、子どもたちに、近現代史、この辺りがやはりきちんと押さえられてないまま、歴史教育で終わってしまっているのは、やっぱり問題だと思います。ただ、どういうものを教えなさいと言うつもりはないのですけれども、やっぱり教科書で書かれていることを、きっちり教えられるようにしてもらわないと、いくらよい教科書を選んだところで、尻切れトンぼになってしまう。その辺りはもう一度確認ですけど、近現代史の辺りはきっちり押さえられているのでしょうか。

調査員代表 3年生になっても出来る時間がありますので、最後まできちっとできるように、今やっているところです。

坪井委員長 他にどうでしょうか。では、公民の方に移らせてもらってもよいですか。まず質問はないですか。

庄山委員 はい。この教科書を見せていただきましたしても、個人の尊重と日本国憲法で、日本国憲法がきちっと学習する内容になっておりますね。それで、ページ数も結構20何ページあって、時間も取っていくのだと思うのですが、それにしても子どもたちが日本国憲法について知らないなっていうような感じがあるのです。公民の学習は教科書に従ってなされるのですね。

調査員代表 そうですね、基本的に。

庄山委員 これは3年生ですかね。2年生で歴史が残り、先生が異動すると、ややこしいことになるかも分かりませんが。

調査員代表 引継ぎがあります。

庄山委員 でもまあ一応、歴史の残りの時間、3年生の4時間。35週×4時間。結構時間ありますよね。

調査員代表 年間の指導計画が作ってありますので、それに基づいて人が代わってもさせていただきます。

庄山委員 再度同じことをお尋ねしますが、日本国憲法と自由、「私たちの生活と政治」ですね。これについて、教科書で特徴的っていうふうなところはございましたか。特にそれほど大きく変わりはないですか。

調査員代表 日本国憲法のところで、各社の違いということですが、特に大きな違いはありませんでした。

庄山委員 人権の保障についてはどうですか。

調査員代表 そうですね。憲法の中で、基本的人権の尊重ということで扱います。

坪井委員長 選挙制度の、選挙権が18歳っていうのは、まだここに間に合っていないのですけれども、その辺りの議論は出ましたか。来年の参議院選かなんか、18歳以上を対象に実施するのですが、まだ教科書では追いついていない状態ですね。

調査員代表 はい、そこまでの議論はありませんが、教科書によって、ちょっと資料が古かったりするっていうものがあるという話がありました。

坪井委員長 それから、テロリズムという言葉は、今まであったのですか。東書、それから帝国がテロリズム、例えば I L I S のことについて触れられているのですけども、これまではどうでしたか。今の教科書は。やっぱり 9. 11 からテロっていう言葉も入るようになったのですか。

調査員代表 今もあります。

坪井委員長 今もあるのですか。それは 9. 11 の関連なんですか。それともアフガンとの関係ですか。

調査員代表 アメリカのニューヨークの 9. 11 の写真が挙げられています。

坪井委員長 最近は本当に、社会が異常に動いていてですね、そういう世界の事案というか言葉自体がいろいろ出てくるので、それにいかに教科書会社が対応して、どの程度まで子ども達に伝えていったらいいか。やっぱりそういうのは本当に、教育者はしっかり掴んでいかないと、ただ闇雲に伝えればいっていいのではないと思います。とりあえず、質問というのはこのくらいにさせていただいて、あとは事務局の方からまた様子を伝えていただき、一旦、社会科だけでもきちんと決めたいなと思います。

庄山委員 もうひとつ最後に。

坪井委員長 庄山委員。

庄山委員 東書には、参考法令っていうのが後ろに載っています。

調査員代表 はい。

庄山委員 他の教科書はいかがでしたか。他もみんなありますか。

調査員代表 ほぼ、ありますね。詳しくにはいろいろ差があるかもしれませんが、それぞれ掲載されております。

坪井委員長 滝澤委員

滝澤委員 公民って非常に教えるのが難しいと思いますし、どこに重点を置くかで、随分授業の内容も違ってくるかと思うのですが、今、一番大事にしているというか、どれをまずしっかりと教えていかなければいけないかという点をどのように認識してみえますか。

調査員代表 公民ということですので、しかも義務教育最後に学ぶということですし、公民の育成と言えます。今、社会と言いますけども、持続可能な社会を形成していく、そしてそれに参画していく、そういう人間をつくらなければいけませんので、いろんな課題が社会にはあります。今ある課題を授業で取り上げながら、子どもたちにいろいろ考えさせて、どんなふうに社会参画していくかという意識を高めさせることが大事かと思います。

滝澤委員 先程言われた憲法とかですね、人権とか、あるいは政治、国会の仕組みだとか、行政の仕組み、裁判所の役割とかですね、そういう法律、政治、この辺りというのは結構知識として教えないと、一般のニュースや何かを理解する上でも、うまく理解できないかなと思うのですが、世の中の動きだけではなくて、社会の基本的な仕組み、それは何に基づいているのかとか、人権とは何かとか、そういうものを、私はまず教えないといけないのではないかなと思うのですが、そうすると、例えばこの東書の教科書ですと、第2章、第3章、「個人の尊重と日本国憲法」とか「現代の民主政治の社会」とか、この辺で、どうしても基礎的な知識として持っていなければいけない。もちろん持続可能な社会とかね、現代の食生活についてとか、あるいは災害・エネルギーについてとかもそうですけれども、他のところでもそれは教えられるような気もしていますね、例えばエネルギー問題とか災害対策とかですね。公民としてはやっぱり現代の社会の基本の知識っていうか、それが必要なんじゃないかなと思うのですが、そういう視点でこの東書を選ばれたのですか。

調査員代表 おっしゃられるような、基礎基本に関わるような部分が大変大切で、それをまず社会に出るまでに教えないといけないのではないかというふうなことを、おっしゃってみえると思うのですが、本当にその第2章とか第3章に載っている憲法、それから行政のところですね、政治の仕組みとかいろいろありますが、これらを把握させるというか、定着させて卒業させる。そういう基本的なもの、基礎的なものを学んでもらうのは当然ですが、定着させるた

めにはどうするのかと申しますと、それを使って何かを考えると、活動することをして、そしてその基礎基本が生徒たちに定着していく。単に言葉として学んだだけだと、それは、我々の生活とはまた違うというふうな、そのようなことで、身に付かない部分にもなっていきかねないかな、ということで、いろいろ基礎基本で学んだことを使って学習させる、考えさせる、発展的な学習をさせる、その学習をいろいろ考える中で、基礎基本がずっとしっかりと身体の中にも浸み込むという、そんな形で進めていくべきかなと思っております。

滝澤委員 東書はそれが一番やりやすい感じで認められたのですね。

調査員代表 はい。

坪井委員長 そしたら、とりあえず質問させていただいたので、一旦こちらの方で協議させていただきます。

調査員代表 お願いします。

(調査員代表、指導主事退室)

坪井委員長 それでは事務局の方からですね、調査研究委員会の地理、歴史、公民、この3点にあたっての状況を、簡単によろしく願いいたします。

教育研究支援課長 まず地理歴史公民、地図も含めて教科書採択のあり方について、共通認識を図った場面がございました。今回審議していただいております地理歴史公民それぞれが、候補として挙がってきています出版社が異なっております。このように社会科で使用する教科書の出版社がまちまちになるということはどうかという確認の場面がありまして、それにつきましては、各社検定を通っている教科書が今ここにあるわけですので、各教科の目的を達成するために今ここにあるわけで、さらに種目ごとに1種類ずつ決める、となっておりますので、その観点に関しては、まったく問題がないということを確認いたしました。地理については東書もなかなかいいという話は当日も出ていましたが、委員の皆さまが、帝国がいいと納得した部分がありまして、例えば農業分野ですが地方の農業について何度も教科書の中に出てくるということがありまして、農業と工業が分かれて出てくる帝国が指導者は指導しやすいんだということで委員の皆さまが納得されたということがありました。領土問題については、しっかり記述がしてあるということで、帝国がいいのではないかと

認識を持っていただいております。ここで出なかったこととして特徴的なことがございましたので、紹介させていただきます。例えば、地域で区切った時に三重県は、東海地方に入るのか、近畿地方に入るのかということが議論になったりしてございました。帝国で申しますと、131ページの右の真ん中、「2つの特徴を併せ持つ三重県」、東書ですと、138ページの左下にございます。郷土三重について詳しく記述されているなということが印象に残るとい話し合いもございました。歴史についてですが、B村については、指導について配慮が必要である認識で一致しております。日文につきましては、子どもも興味がわきやすい、わかりやすい文脈、教員も指導がしやすい、ということで候補としてふさわしいという共通認識をいただいております。領土問題や人権問題についても、両面において、しっかりとした記述がありまして、候補の一つとなりうるということで納得していただいております。公民についても、人権問題、現代社会で問題になっています、原発問題や災害対策などもしっかりと記述されておりますので、東書でよいのではないかとこの話になりました。先程話題にも上りましたが、一貫性をもって記述されているということがとてもいいのではないかとこのことで確認されております。以上です。

坪井委員長 ありがとうございます。今の事務局からの調査研究委員会の状況ということで報告について、なにか御質問ありますでしょうか。滝澤委員。

滝澤委員 歴史とか公民は、立場の違いとか考え方の違いによって、かなり表現が違っているような気がしましてですね。特に自由社と育鵬社につきましては、ちょっと視点が違うような気がしまして、どちらかという、戦争による自虐感よりも、むしろ日本人の良さとか、日本が誇れるような国であるということ、将来に向かって強調したいような意図があるような気がするのですが、それについて皆さんは、意見が出なかったのでしょうか。

教育研究支援課長 調査研究委員会の中で、自虐的な記述であるとか、そういう観点での話はございませんでした。

滝澤委員 この両社について、意見というのは無かったのですか。自由社とか育鵬社とか。

教育研究支援課長 例えば先程、人権問題であるとか領土問題ですね、そういったところの記述が十分かどうかというような報告の中で、調査委員の方からは、人権問題について、例えば量の違いが確認されるというようなお話はござ

いました。

滝澤委員 特に両社を名指しでどうこうっていうような御意見は出ませんでしたか。

石川教育長 調査研究委員会では、教育委員会に対して候補を推薦をするという観点から、上位の方で競っている部分についての確認チェックというのが中心で、質疑、意見の交換が行われまして、そういうふうな状況の中で出てこなかったということでございます。

坪井委員長 他にどうでしょうか。ある程度決めていきたいなと思いますので、御意見いかがでしょうか。

石川教育長 意見の前に、少し御質問のあった授業のインターネットの件について、現在は教室の中でインターネットが使える環境にはございませんので、各教科では難しいのです。今年整備するところから、教室でインターネットが使えるようになります。今後は増えていくだろうっていうふうに思います。ちょっと選挙権の年齢の話もありましたが、現在推薦に挙がっている公民の東書が18歳で間に合っていますので。40ページに18歳の国民投票と選挙権と両方書いてありますが。

坪井委員長 国民投票の件ですか。

石川教育長 2018年6月21日以降、国民投票の投票年齢が20歳から18歳に引き下げられます。

庄山委員 東書ですか。

石川教育長 東書です。40ページの左のアクセスのところです。

坪井委員長 選挙権は検討することを求めています。国民投票については、2020年ということですね。

石川教育長 あ、決まったとは書いてないですね。

坪井委員長 でも、随分先進的なことが書いてありますね。

教育研究支援課長 その点で事務局からよろしいですか。教科書の発行のことで、これは今見本本として、こちらへ来ておまして、この後全国で採択の状況を見て、需要数報告をしていくのですが、その間に見直しがなされます。それで、子どもたちの手に届くまでに、このような時事の問題については、記述が変わることもあります。

坪井委員長 では続きを、石川教育長。

石川教育長 ちょっと確認ですが、先程の説明の中で、憲法の記述はあまり違いがないというお話があったのですが、どれをもって違いがあるかっていう部分はあるのですけれども、随分違う気がします。この間の調査研究委員会でも出たのですが、ある社は、世間で言われているいろんな論評なり、意見・考え方をあえて挙げています。ほとんどの社は客観的事実だけを挙げていますが。大きく違うところは、日本国憲法が制定された時の記述なのですが、GHQがどういう関与の仕方であったかっていう部分の記述が、各社結構違うところがあります。個人的な意見としては、東書のGHQの39ページなんかは、比較的フラットに書いてあるなっていう気がしました。結構考えてあるなっていうのは、文教出版。文教出版は本文をまずさらりと書いてあって、すこしコラム的で、ちょっと注釈が書いてあります。滝澤委員が言われたように、自由社なんかは、かなり突っ込んだ書き方がしてあり、他と違うところがあります。

坪井委員長 いろいろな御意見ありましたが、地理が今までにない帝国という、結果になったのですけれども、工業とか農業とか産業と非常に分かれていて、扱いやすいというのは、確かに調査研究委員会で言われたのですけれども、それ以外で僕はいつも「もうちょっとこれ。」というのを何か内容的にあるとよいと思うのですが、強いて言えば、今まで地図は帝国ですから、地理と関連して意味があるのかなと思っています。

庄山委員 詳しく見ていないから分かりませんが、地図の教科書を作るために、かなりのデータを集めていると思うんですね。この帝国なんかはきっと。ですから、そういう意味では非常に子どもたちに見やすいような形で、データを表示しているのだと思います。

坪井委員長 ちょっと関連しますけど、地図は帝国と東書が発行していますね。地理も挙がってきているのは帝国と、その次、東書も、というような感じだっ

たと思うので、やっぱりその辺は上位に挙がっている地理のところは、地図も出しているという感じがあるのかなと。その辺もう少し「こうだ」と言ってくださるといいのですが。

庄山委員 私が思うのは、地理の地図を見まして「帝国の地図」という感じのものすごくするのです。ですから学習を進める上には、関連があつて、子どもたちにとっては非常にいいのかなと思います。

坪井委員長 確かに資料の地図を見て、本当に帝国にはなじんだ地図が頻繁に入れられている。ただ、東書もその辺は負けまいと入れてあるので、それぞれ独自の地図を入れております。

庄山委員 関連していますね。

坪井委員長 その辺の議論は無かったと感じます。どうでしょう。もうある程度結論を出していきたいなと思うので。

石川教育長 まず、地理ですが、いろんな経過の中で、書籍としてはやっぱり東書がよい。その理由としてはまず、本文が単に地理の客観的事実ではなくて、理由とかもきっちり必要な部分については書いてあるので、理解はしやすいからです。帝国はやはり日本、世界全区を学ぶ時に、それぞれの単元に学習の課題が頭にあつて、「確認しよう」あるいは「説明しよう」とかつてというのが、ちゃんと明確に押さえてあるっていうやり方が、指導上、出来るという意味でいくと、まあ順番の話もありましたが、説明のとおり帝国の方がより適切であると思いますね。

坪井委員長 他どうですかね。

教育研究支援課長 調査研究委員会でちょっと話題になったことで、まだ申し上げていないことで、一つ報告だけ付け足させていただきます。帝国の地理の137ページに、三角州の例として、津市の香良洲の写真が出ているというのが調査研究委員会の中で紹介されておまして、これが東書は広島でした。そういったことは調査研究委員会の中で話題となりました。

坪井委員長 地理に関してですが、社会科というのは今、非常にレベルが高いというか教科書会社がたくさん出してくるということは、それだけ競っている

ということだと思いますし、歴史的にも古いので、甲乙付け難いということなので、調査員の方でも難しいと思います。特に変わるということでそれなりの説明が必要だと思いますので、その時にきっちりと私は答えられる根拠がないといけないと思います。それでちょっとその辺しかりとした理由を押さえておきたいと思います。帝国にするなら「これ」というのを何か言ってくださることはありませんか。教育長は、ちょっと言ってくださいましたが。どうですか、今の段階で工業とか農業とかそういうところが非常に帝国は現場の教員のサイドから言えば分かりやすいということでした。それが子ども達への整理の仕方としても、分かりやすい。それから、最近はこのAB版に変わってきて、去年までは東書だけだったのが、今年からはかなりAB版の形に変わってきて、これがもう甲乙付け難い。後は、結果的に地図の選定はどうなるか分からないですけれども、今まで帝国という地図を使っていたということから見れば、特に甲乙付け難いもので言えば帝国で、地理も帝国ということであれば、非常に連携をとれるということですかね。

石川教育長　じゃあもう一点だけ。今回この3つをセットでお願いしているので、例えば歴史の中で、私たちは東書を落としているのですけれども、なぜかという地理の中にも出てくるのですが、地理は九州とか各地方の最後に振り返りが出てきます。振り返りのまとめ方が、歴然と東書より帝国の方が分かりやすくまとまっている。内容は指導の中で、いろいろ足したりできるんでしょうけれども、子どもが振り返りの時に、東書の振り返りの文のまとめ方より帝国の方がいいかなあと。こういうのは大きな要素だと思うのです。

坪井委員長　そういうようなことも含めてですね、他に意見が無いようでしたら、帝国の社会・地理的分野の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として採択をすることを決定してよろしいですね。

各委員　異議なし。

坪井委員長　よろしいですか。それでは津市教育委員会としては、帝国の社会・地理的分野の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として採択をすることを決定したいと思います。次に社会の歴史ですけれども、これはいろいろ意見いただいたんですけども、日文ということですが、この辺りはどうですか。日文でよろしいですか。それではですね、日文の社会・歴史的分野の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として採択をすることを決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは津市教育委員会として、日文の社会・歴史的分野の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として採択をすることを決定します。それから次、公民ですけれども、滝澤委員からもどういったことを中心に公民というお話があったのですけれども、これは基本的には学習指導要領の解説書のところに戻ってくると思いますので、公民的資質を、という文言が書いてあると思いますが、それには多分、教科書検定で合格していると思いますので、むしろそういうことだと思います。基本的な選挙の仕組みとかね、そういうのをしっかりここで学ばせていくっていうのはおっしゃられるとおりは思いますけれども。これどうですか。教科書会社、東書ということで。東書ですね、社会・公民的分野の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として採択をすることを決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 それでは津市教育委員会として、東書の、社会・公民的分野の教科書を、平成28年度小中学校用教科用図書として採択をすることを決定します。

坪井委員長 次に地図の採択を行いたいと思います。調査員の代表と担当指導主事の入室をお願いします。

(調査員代表、指導主事入室)

坪井委員長 それでは、地図の調査結果について報告をお願いします。

調査員代表 2つの教科書を検討させていただきました結果、帝国の「中学校社会科地図」がより適切な教科書であると判断しました。その理由の1点目は、生徒が課題を追究する際の情報を得るためのコンテンツの一つとして考えると、種々の地図の掲載はもちろんのこと、資料や写真が豊富で適切に配置されているからです。それによって、理解しやすく、興味・関心を高める内容にもなっています。2点目は、地理的技能である読図や作図といった地図活用の技能が身につけられるように工夫されていることです。地図帳の使い方が巻頭の見開きページに具体的に示されているとともに、「地図を見る目」「やってみよう」というコーナーで課題や着目点が示されており、地図を見るときのポイントや

活用方法が分かりやすく記載されていて、生徒の自主的な取組を促すように工夫されています。また、環境問題や領土問題に関係する地図や写真、資料もあり、他の分野の学習にも使えるようになっています。以上です。

坪井委員長 ありがとうございます。いまの報告につきまして、委員の皆さん質問はありますか。

坪井委員長 滝澤委員

滝澤委員 帝国の地図というのは、ずっと前から採用されているんじゃないですか。

調査員代表 いつからかは分かりませんが、そうだと思います。

滝澤委員 デザインも、こちらが白で、こちらがブルーで。

調査員代表 そう言われればそうですね。

滝澤委員 私、子どもの地図で、ここと同じような、それでもう何十年も同じ地図を安定的に使っていただいているような気がするのです。それで間違いありませんか。

調査員代表 いつ頃からかというのが分かりませんが、長い期間使用していると思います。

滝澤委員 ということは、皆さんにとって使い勝手がいいのかなと思いますが。

調査員代表 今まで、そういうふうに判断されたのだと思います。

庄山委員 帝国が慣れていて、見やすく資料も多くて、先生にも生徒にとっても非常に学習をしやすいというような説明をしていただいたのですが、今、ざっと見るのに、こういうところがどうだと思いながら、ずっと見せていただいているんですけども、例えば地図、この小さい地図があつて、大きい日本の地図のどこらへんだよというものも両方ありますし、何か特徴的な、ここが違うんだという、例えば、こちらにはないけれども、こちらにはこういう資料が豊富というような、こういう資料がありますよというような。今、私がずっ

と見ていて、あまりよくは違いが分からなくて。国旗も同じように入っていますし、その国のどこの部分だというのも両方入っていますし、ですから、その資料編で違うのですかね。

調査員代表 そうですね。こういう部分というのか、本当にこの地図というか、地形が描いてあるとかそういうのではなく、こちらの添付されている資料の違いが大きいように思います。

庄山委員 資料ですね。例えば、ここにはあるけど、ここには無いよというようなものが、もしあれば、一つでも教えていただきたい。

調査員代表 例えば、両方とも27、28ページで、農業の分布というのを見ていただくと、帝国の方は、農業の分布というのがあったりしますが、東書の方には、あまりないです。

庄山委員 分かりにくいですよ。

調査員代表 ぱっと、この両ページを見比べていただいても、帝国の方がいろいろ違いが分かるような、色合いであり見易いと思います。例えば、主な鉱産物でも、東書の28ページには中国の地下資源というのがあり、帝国の方も28ページに主な鉱産資源というのがあるのですが、内容や表示の仕方が違います。

坪井委員長 他、どうですか。松本委員

松本委員 帝国が、いいだろうということなんですね。今回に当たって何か新しくなったとか、バージョンアップしたとか、何かあれば教えていただけないでしょうか。数値的に新しい年度のものになったとか。

調査員代表 やはりその、例えば折り込みの78、9、80ページのところがありますけれども、ここは領土問題の記述というものは、出てきているというのがあります。あとは資料がいろいろ新しくなっています。

坪井委員長 他にどうですか。いいですか。では、ありがとうございました。

(調査員代表、指導主事退室)

坪井委員長 では、事務局の方からお願いします。

教育研究支援課長 帝国の地図は図表や資料が豊富で汎用性があり、また見やすいという点から帝国がよいのでという意見が各委員から出されました。

坪井委員長 今の事務局からの報告も踏まえて、何か質問や意見はありますでしょうか。

石川教育長 意見です。東書の三重県の地図を見ると、東書も頑張っているなど。これはですね、東書は92ページ、帝国は94ページなんですが、和歌山と奈良と三重県の狭間にある北山地区が飛び地になっているところなんか、和歌山県、飛び地と明確に書いてある。これなんか比較的、データとしては分かりやすい。帝国はそういう表現がない。それから、捕れる魚の量が違います。帝国さんは鯛しか書いてないけど、東書さんは頑張っているいろんな魚、はまち、ひらめ、伊勢海老も入れてもらってあります。でもその、うちの近くのでいくと、ちょっと外れますが、香良洲だと海苔とかですね。それからもう一つ分かりやすいのは、世界遺産の表示ですね。これはその帝国は結構分かりやすく、帝国は緑の白抜きの四角で、世界遺産が書いてあって、三重県から和歌山、奈良県辺りがあるんですが、小さくて分かりにくいかなというものがあるんですが、結構、東書も頑張っているなというものがあります。ただ、意見としては、カーナビじゃないですけども、この帝国の3Dで書いてある例えば三重県の上に描いてある神戸市付近の様子、この図ですね。これがやっぱり分かりやすいなというのと、あと三重県の、地域性のところで、帝国の101ページ、この三重県のイラスト的な産業あるいは文化財中心にした表が、これが分かりやすいなというのと、布引山地がこれにあって、これは嬉しいなと思います。やはり資料が分かりやすいというのは、子どもにとって理解を深める助けになっていると。ただ、地図自体は結構頑張ったなと思います。

坪井委員長 他にどうですか。小学校も東書となっているので、随分、東書頑張っているなと思います。東書というのは、小学校の地図帳に近い地図というような感じで、こちら帝国の方が大人っぽい資料の整理の仕方、余分なものがあまり書いてないような感じです。慣れかもしれませんが。

石川教育長 災害の関係で言うと、帝国の143ページの南海トラフのプレート図というのは、大きく扱いやすいですね。

坪井委員長 どうでしょうか。これからは、競ってくるのではないかと思います。これから、4年後とか。まだ、今の段階では、帝国かなと思います。

坪井委員長 それでは、帝国の地図の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として、採択を決定してよろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

坪井委員長 はい、教育委員会として、帝国の地図の教科書を、平成28年度使用中学校用教科用図書として採択することを決定します。よろしくお願ひします。

以上で、今日の分は終わりましたので、今後の予定などありましたら。

教育研究支援課長 はい。8月5日の9時から第1会議室で、開催しますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

坪井委員長 ありがとうございました。